



21世紀石川少年の翼

交流事業報告書

2017



目 次

C O N T E N T S

Ⅰ はじめに（実行委員会委員長あいさつ）	1
Ⅱ 中国・江蘇省青少年交流事業（派遣）	3
○ 団長あいさつ	4
○ 私たちのレポート	5
○ 交流の思い出	13
○ 研修をふりかえって	17
○ 団員からのメッセージ	18
○ 色紙よせがき	19
○ 資料編	
日 程	20
名 簿	21
Ⅲ 海外県人会青少年育成交流事業（ブラジル派遣）	23
○ 団長あいさつ	24
○ 私たちのレポート	25
○ 交流の思い出	35
○ 研修をふりかえって	37
○ 団員からのメッセージ	38
○ 色紙よせがき	39
○ 資料編	
日 程	40
名 簿	42
Ⅳ ロシア・イルクーツク州青少年交流事業（受入）	43
○ 団長あいさつ	44
○ 交流の思い出	45
○ 感想文	51
○ 資料編	
日 程	52
名 簿	54
Ⅴ 韓国・全羅北道青少年交流事業（受入）	55
○ 代表あいさつ	56
○ 交流の思い出	57
○ 感想文	62
○ 資料編	
日 程	66
名 簿	67
Ⅵ 「21世紀石川少年の翼」これまでのあゆみ	68
Ⅶ 平成29年度「21世紀石川少年の翼」実行委員会委員名簿	69

はじめに

「21世紀石川少年の翼」実行委員会委員長
石川県観光戦略推進部長
棗 左登志

本県は、友好交流地域である韓国・全羅北道、中国・江蘇省、ロシア・イルクーツク州と幅広い分野で交流を展開してきております。なかでも青少年交流は、国際感覚や幅広い見識を持った青少年を育成する大切な事業との位置づけで、「21世紀石川少年の翼」として、平成8年度から実施しております。

今年度は、中国・江蘇省へ高校生8名を派遣し、韓国・全羅北道からは中学生12名、ロシア・イルクーツク州からは高校生7名を受け入れて事業を実施しました。このほか、海外県人会青少年育成交流事業としてブラジルへ高校生4名を派遣し、ブラジル石川県人会や地域の方々との交流を深めてまいりました。

本事業への参加を通じ、次代を担う青少年同士が言葉や習慣の壁を越えて友情を育むことは、青少年にとって貴重な経験となるだけでなく、互いの国の友好親善や交流の発展にも大きな意義を有します。

特に、派遣・受入とも交流プログラムに組み込んでいるホームステイは、通常の旅行では経験できない、互いの国の暮らしぶりや生活習慣等に触れることができ、またホストファミリーと密接な時間を過ごすことで、生涯忘れられない有意義な経験となっているところです。

本事業に参加した青少年の皆さんには、今回得た貴重な経験を生かし、今後とも学校や地域において、国際交流・協力活動やボランティア活動へ積極的に参加され、草の根交流を支えていただくことを期待しています。

本事業の実施にあたっては、市町をはじめ、関係機関・団体やホストファミリー、また、韓国・全羅北道国際協力課、中国・江蘇省人民对外友好協会、ロシア・イルクーツク州教育局、ブラジル石川県人会など多くのご関係の皆様にご多大なご協力を頂いております。こうした多くの皆様方に心より感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

中国・江蘇省青少年交流事業（派遣）

期間：平成29年8月3日(木)～8日(火)

中国・江蘇省の豆知識

○位 置

中国大陸の東部沿海地方の中心部、長江の下流に位置する。
東は黄海、南東に上海市、西は安徽省、北は山東省、南は浙江省に接する。

○面 積

10.26万km²

○人 口

約7,976万人

○制 度

省が市を、市が県を管轄する行政制度

省直轄市：13

(南京、蘇州、無錫、常州、南通、揚州、鎮江、
連雲港、塩城、徐州、淮安、泰州、宿遷)

○省 都

南京市

○江蘇省ホームページ

<http://www.jiangsu.gov.cn/>（中国語）



*Ishikawa Japan~
~Jiangsu Province China*

日中の更なる友好交流の促進に向けて

平成29年度 中国江蘇省派遣団 団長
石川県観光戦略推進部国際交流課
課参事兼課長補佐 戒 田 由香里

平成29年度「21世紀石川少年の翼」中国派遣団は、多くの思い出と貴重な経験を得て、全員無事に帰国することができました。本事業の実施にあたり、ご理解とご協力をいただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

石川県と江蘇省は、40年余の長きにわたり、青少年、環境、女性団体、経済、学術研究、文化芸術等の幅広い分野で実りある交流を行っております。なかでも、青少年交流は、平成7年に締結した「友好交流に関する合意書」に基づき、平成8年から実施しており、両県省の青少年の友好親善と相互理解の促進に大きな役割を果たしていると考えております。

今回、学校交流で訪問した南通大学付属中学では、大変な歓迎を受け、我々管理員は圧倒されましたが、団員は皆、見事な中国語で自己紹介し、相手側との心の距離を一気に縮めてくれました。その後もクイズや折り紙、日中それぞれの椅子取りゲームの紹介など、楽しみながら互いの距離をどんどん縮め、交流会の最後には、「幸せなら手をたたこう」を口ずさみ、中国の保護者も加わって、皆で手をたたき、共に笑いあう姿に、見ていたこちらにも感動いたしました。

ホームステイでは、各自が中国の方々と積極的に交流し、現地の文化や価値観を直に体験したことで、「行く前よりも中国の印象が良いものになった」と話していました。ホストファミリーから心温まるもてなしを受け、皆が素晴らしい友情を育むことができたらしく、最後まで別れを惜しむ姿が大変印象的でした。

最終日には、迷走した台風が北陸方面を直撃し、強風のため帰国便が富山空港に着陸できず、急ぎよ関西国際空港に着陸するというハプニングがありました。結局、金沢駅には夜23時頃の到着となり、保護者の皆様には大変ご心配をおかけいたしました。団員の皆さんには、この出来事を「人生には想定外がある。逃げずに受けとめ、如何に乗り越えていくかが大事」ということを学ぶことができた前向きに考えて、今後の人生においても教訓として胸に刻んでもらいたいと思います。

日中の次代を担う青少年が顔と顔を合わせて、言葉や習慣の壁を超えて、友情を育むことは、今後の両国の友好交流に大きな意義を持つと考えております。団員の皆さんには、今回得られた貴重な経験をしっかりと生かして、今後国際交流の場で大いに活躍されることを期待しております。

最後になりますが、滞在期間中あらゆる面で細やかにお世話をいただいた江蘇省人民対外友好協会の皆様をはじめ、訪問校の先生方、ホストファミリーの皆様、参加した高校生の保護者の皆様、本事業の実施にご協力いただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

私たちのレポート

事前研修・知事表敬訪問

事前研修

日時 7月8日(土) 10:30~
7月9日(日) 8:30~
場所 石川県青少年総合研修センター
内容 団員証交付式
オリエンテーション
団別研修
・交流会の出し物決定、練習
・派遣国について
・語学講座



中国語講座：汪然国際交流員



出し物の準備：折り紙



出し物の準備：クイズ



出し物の準備：フルーツバスケット



出し物の準備：フルーツバスケット 出し物の相談

知事表敬訪問

日時 7月24日(月) 13:00~
場所 石川県庁 知事室
次第 知事激励挨拶
団員挨拶
中国派遣団員代表 板坂 梨央
懇談



石川県知事表敬訪問

1日目 8月3日(木)

10:10 県庁発
10:25 金沢駅発
11:20 小松空港着
12:00 結団式

13:50 小松空港発(MU558)
15:35 上海浦東空港着
21:39 南京着

結団式

場 所 小松空港2階

次 第 団長挨拶

団員代表挨拶

金沢桜丘高校2年 須藤 龍名

小田波 優矢

金沢二水高校1年

私たち、21世紀石川少年の翼中国派遣団8人は、8月3日の今日、中国へ向けて、小松空港を出発した。海外へ行くという期待と少年の翼として行くという不安の両方があった。

機内で温かいお茶を中国語で注文してみた。一回で通じたことが、すごく嬉しかった。

中国へ着き、外へ出てみると、発展した街並みを見て、自分たちは中国についたという意識が高まった。リニアモーターカーに乗って南京へ向かったが、新幹線よりも早い300km/hという速さに驚いた。食事はとても豪華で美味しい中華料理を食べることができた。

ホテルは予想以上にきれいだった。

これから6日間、充実した日々をすごしたい。



小松空港



結団式



浦東空港到着：リニアモーターカー乗り場



リニアモーターカー



上海駅

2日目 8月4日(金)

9:00 中山陵

11:00 南京博物院

13:00 昼食

14:30 南京市民俗博物館(切り紙体験)

18:00 江蘇省人民対外友好協会表敬訪問、
歓迎夕食会

表敬、歓迎夕食会

場 所 江蘇中日友好会館

次 第 柏蘇寧江蘇省人民対外友好協会会長挨拶
団長挨拶
団員代表挨拶

金沢桜丘高校1年 上谷 奏

金沢泉丘高校1年 佐藤 桃佳



中山陵



中山陵



南京博物院



中山陵



南京市民俗博物館 (切り紙体験)



南京博物院



歓迎夕食会



歓迎夕食会

佐藤 桃佳

金沢泉丘高校1年

驚きの連続だった1日目が終わってしまいました。「もっと1日が長ければいいのに。」と思うのと同時に、2日目への期待が高まりました。

2日目、最初に向かったのは中山陵。道中、沢山の人々や建造物に目を奪われ、ちらほら見える日本語に嬉しさを感じました。中山陵の頂上への階段はなんと392段。家の階段の何倍でしょうか。そんな階段を全員で上り切れて本当に良かったです。下りの道に乗ったミニバスの風やアイスが涼ませてくれました。

この日の昼食は私にとって絶対に忘れられないものとなるでしょう。平和の象徴、公園や駅にいる、泣き声はポッポー。そんなイメージの鳩が料理に?!でも見た目は小さめの鳥、食べてみれば香辛料の不思議な味がして、とてもおいしかったです。

他にも沢山のことを体験しました。大きな博物院、切り紙体験などなど。でも最後にはやっぱり「1日がもっと長ければいいのに。」とも思いながら、3日目への期待に胸を弾ませるのでした。

学校訪問

場 所 南通大学付属中学
 次 第 南通大学付属中学 朱全中校長あいさつ
 団長あいさつ
 南通大学付属中学 学生あいさつ
 団員代表挨拶
 七尾高校 2年 柴田 蒔尋
 金沢二水高校1年 小田波 優矢
 南通市教育局 姜学勤副局長あいさつ
 記念品交換
 昼食
 校内見学
 交歓会
 ホストファミリー対面
 団員代表挨拶
 金沢西高校 2年 宮 歩月

柴田 蒔尋

七尾高校2年

待ちに待ったホームステイの初日、前日までは楽しみで楽しみでしかたありませんでした。しかし、ホームステイが近づくとつれて、言語や生活習慣の違いに不安を感じました。そんな私の不安をほどいてくれたのは「堅苦しくしないで、日本の家のように…」というホストマザーの一言でした。それからの交流会やホームステイプログラムは自分らしく振る舞い充実した時間を過ごすことができました。

ホームステイ先の家に行くとホストグランパ、グランマが迎えてくれました。ホストファミリーはみんな優しく食事のときにはいろんな料理を私によそってくれました。また、私の家族についても興味を持ってくれ、お土産を一緒に選んでくれたり、家族の紹介に耳を傾けてくれました。私の家族のことまで思ってくれることが嬉しかったです。明日のホームステイプログラムが一層楽しみになるそんな一日でした。



南通大学付属中学（キャンパス見学）



南通大学付属中学（歓迎式）



南通大学付属中学（歓迎式）



南通大学附属中学（キャンパス見学）



南通大学附属中学との文化交流（クイズ）



南通大学附属中学との文化交流（折り紙）



南通大学附属中学との文化交流（歌）



南通大学附属中学（昨年度受入の学生との再会）



南通大学附属中学（昼食）

山邊 佳代

石川工業高等専門学校2年

この日はホームステイ先の家族の方たちとの対面と去年受け入れをした子と約1年ぶりの再会ということでも緊張しました。「どんな家族かな」、「私のこと覚えているかな」などいろんな気持ちでしたが写真撮影のあとの食堂までの移動の時に「Kayo, come on!」と日本語読みの名前で呼んでくれたことがとても嬉しかったです。移動中は他の子も話しかけてくれてすごく楽しかったです。交流会では一緒に折り紙を作り、盛り上がる心配だったイス取りゲームも皆笑顔でやっていて楽しんでくれたように見え、安心しました。

その日の夜は、夕飯を食べた後で公園に行って卓球とバドミントンをしました。あまり上手くできなくてコツを教えてもらいながらでしたが、それでも少し距離を縮めることができました気がします。日本では夜に遊びに行くことはなかったので、公園に着いて多くの人がそれぞれ好きなスポーツをしているのを見たときはなんだか新鮮な感じでした。家族の皆さんが沢山話しかけてくれて楽しむことができました。



ホームステイ



ホームステイ



ホームステイ



ホームステイ

上谷 奏

金沢桜丘高校1年

午前中は南通博物院に行きました。日本と中国の間には昔から文物の交流があったところは歴史の授業で習っていましたが、日本が明治維新の頃に南通の人々が日本に学びに来ていたことを初めて知りました。

午後はショッピングモールに行きました。とても大きくて広かったです。夕ご飯には、天ぷらやお寿司などの日本料理を食べました。日本食の人気は高いですが、外国の人はやっぱり納豆が苦手でした。

夜は船に乗って濠河の夜景を楽しみました。中国でも5本の指に入るほど歴史ある運河で、その幅の広さや清潔さは有名になっているそうです。色鮮やかなイルミネーションがとても美しく、ホストファミリーとの忘れられない思い出の時間と場になりました。

宮 歩月

金沢西高校2年

終日ホームステイプログラムで、英語の苦手な私は一番不安な日でもありました。ですが不安になる暇もないくらい驚くことの連続で主に三つあげようと思います。

一つ目は、朝ごはんです。タッパなどではなくスーパー袋に入っている餃子やごま団子をそのまま箸でつつくのです。また、豆乳を水で薄めたようなものもあり、味は美味しかったです。

二つ目はシャワーです。トイレの隣にシャワーはあるのですが、カーテンなどの仕切りはなく、またバスがあるわけでもなく、床に直接流すのです!!とても驚き、仕組みが全く理解できませんでした。

三つ目はバイクです。人生初、自動自転車の後ろに乗せてもらったことに続き、原付バイクで三人乗りをしました。苦しかったけどおもしろかったです。

少年の翼で知り合った人の話を聞く限り、私はきっと本当の一般家庭にステイしました。だから中国のリアルなマンション事情や生活様式を肌で感じる事ができたと思います。それもまた、親切にして下さったステイ先のファミリーのお陰なので感謝しています。



ホームステイ



ホームステイ

5日目 8月7日(月)

8:20 ホームステイ先より集合
 8:30 南通発
 11:30 上海着・豫園
 12:30 昼食
 15:00 上海博物館

17:00 東方明珠テレビタワー見学
 19:00 夕食
 19:40 外灘散策
 20:30 ホテル



ホストファミリーと



ホストファミリーと



ホストファミリーと



ホストファミリーと



ホストファミリーと



ホストファミリーと



豫園



上海博物館



外灘

須藤 龍名

金沢桜丘高校2年

2泊3日のホームステイが終了し、ホストファミリーにお世話になった最後の日でした。さみしさもあったけれど、日本語の通じる相手、メンバーに会えてほっとした部分もありました。

上海の観光がとっても楽しかったです。楽しみだった夜景は想像を超える派手なきれいさがあったし、上海という所が、自分達の想像していた「中国」という町の風景と一致する所もあって、とても自分達が中国にいると実感できました。お土産も買えました。値切りつつ買った置物は、なんと、買った当初から割れていたのを修理した跡が見つかりました。これは客を神様のように扱う日本との大きな文化の違いだと感じました。

この5日目が中国で食べる最後の夜ごはんでした。あまり量は食べなかったけど、文化にも慣れて、メンバーともかなり打ち解けて良い一日となりました。

解団式

場 所 金沢駅
 次 第 団長挨拶
 団員挨拶

石川工業高等専門学校2年 山邊 佳代

板坂 梨央

羽咋高校2年

昨日、視察した観光地が予想より混んでいたの
 で、今日は予定より30分早い5時30分にホテルを
 出発することになった。そしてバスに乗り、上海
 浦東空港に移動した。ようやく慣れてきた中国で
 の生活、国境を越えて、つながることができた友
 人と本当にお別れするのだと思うと、少し悲しく
 なった。台風による風雨で飛行機が欠航になるこ
 とを恐れていたが、幸いにも欠航になることはな
 く安心した。しかし、富山空港の上空を飛行中に
 「悪天候のため、富山空港には着陸できないの
 で、関西国際空港に着陸する」という内容の機内
 放送がかかった。そうして、無事関西国際空港に
 着陸することができた。日本に帰ってこられた喜
 びから、団員たちの顔は、自然と笑顔になってい
 いた。しかし、大変なのはここからだった。石川
 県に帰るために約5時間ほどバスに乗ることにな
 った。そして金沢駅につく頃には、空はすっかり暗
 くなっており、団員も皆疲れきっていたが、無事
 解団式を行うことができ、本当に安心した。団員
 全員が、この研修を通して、何か大きなものを得
 ることができたと感じ、とても有意義な研修で
 あったと改めて実感した。



浦東空港



浦東空港



解団式



浦東空港

交流の思い出

中国での忘れられない6日間

羽咋高校2年 板坂 梨央

8月3日。私たちは、期待と少しの不安を胸に県庁に集まり、小松空港に行き、飛行機に乗り込んだ。機内では、これから始まる中国での生活に想像を膨らませ、胸を躍らせた。そうして中国に到着し、初めて見る中国の景色に目を奪われた。この6日間、さまざまな観光地を巡ったり、江蘇省人民対外友好協会に表敬訪問へ行ったりした。表敬訪問のとき、団員が1人ずつ中国語で自己紹介をする場面があった。そのたびに、巻き起こった、暖かな笑顔と拍手は、今でも鮮明に覚えている。本当にうれしかった。私がつもつ心に残っているのは、南通大学附属中学を訪問したこと、ホームステイで、さまざまな体験をしたことだ。学校訪問では、昨年、ホームステイの受け入れをした現地の生徒と再会することができた。当時の楽しかった思い出や感謝の意を伝え合った。そして、今度は、日本で再会することを約束した。ホームステイプログラムでは日本語、中国語、英語が混ざり合った会話となり、語学の面で大いに成長できたと思う。ホストファミリーに教わりながら餃子を作ったり、ショッピングへ行ったり、映画を見たり、綺麗な夜景を見ながらボートに乗ったりもした。どれもとても楽しかったし、中国の文化や習慣をたくさん学ぶことができた。移動中の車内では、ホストファミリーの小学2年生の次女が、常に話しかけてくれ、中国語や日本語を互いに教えあったり、英語の歌と一緒に歌ったり、笑いが絶えなかった。2泊3日、この家族と一緒にいられて、本当に幸せだったと改めて思った。そして、大好きなホストファミリーとお別れする時が来てしまった。最後に、たくさん写真を撮った。私が、少し中国語を話すだけで、ものすごくほめてくれたり、喜んでくれた第二の家族とのお別れは、やっぱり悲しかった。ハグをしてまた必ず再開することを誓った。帰国してからもSNSで会話をしている。そして、来年の春、ホストファミリーのお母さんが来日するので、そのとき、もっと成長した自分で再開できるように、中国語をもっと学びたいと思った。このとても中身の濃い6日間が実現したのは、この中国派遣に携わって下さったすべての方々に感謝の気持ちを伝えたい。

行ってみないと分からない中国

金沢桜丘高校1年 上谷 奏

中国に着いてまず感じたことは、日本よりも暑いということでした。到着後、本場で初めて口にした中華料理はとても美味しかったです。食べきれないほどの量には驚きました。食事中に箸が日本のものよりも長いことに気づき、理由を聞くと、遠くの大皿からとりやすいからだと分かりました。中国と日本は似ているようで違うと思いました。

私は、江蘇省を私が住んでいる津幡町やとなりの金沢市と似たようなところだと考えていました。しかし、私の予想を覆す人・物・交通量の多さに驚きました。人口は約730万人です。日本より道路の幅が広く、どこまでも続いていました。また、高層ビルが目立ち、マンションに住んでいる人も多く、都市化が大変進んでいるところでした。その一方で、川や森林などもあり、自然豊かなところでもありました。江蘇省には今から5千年以上前から人が暮らしていたことを知り、歴史の長さを感じることができました。

ホームステイでは、ショッピングモールや南通博物館の見学、夜には船に乗って夜景を楽しみました。特に印象に残ったことは、幻想的なイルミネーションです。橋やタワー、水面が、赤や青、黄色、緑、水色、紫などの色に輝いていてとても美しく、今までに見たことのない夜景が広がっていました。ホストファミリーは私を温かく迎え入れてくれました。とても話しやすく、滞在中に中国の文化や学校での勉強についてたくさんのことを教えてもらいました。私は、家族や石川県について紹介しました。お互いのことについて知ることができ、有意義な時間を過ごせました。この出会いを大切にしたいと思いました。

今回の派遣で、現地に行ってみないと分からないことをたくさん発見したり、貴重な体験をしたりすることができました。引率の先生方、中国の先生方、ホストファミリーの皆さんには、心から感謝しています。本当にありがとうございました。

経験と成長

金沢二水高校1年 小田波 優矢

私は今回、初めての中国だった。行く前は、大気汚染など、悪いイメージを強く持っていた。しかし、発展した建造物や、優しい中国の方々に会い、良いイメージの方が強くなった。

2日目から、丸一日中国で過ごしたが、色々な名所や様々な食事から、中国を楽しむことができた。中山陵の上からの景色はとても綺麗で今でも鮮明に覚えている。南京博物院や上海博物館では、中国古来の歴史や文化を学ぶことができた。豫園は、日本とよく似た庭園があり、中国と日本は関係が深かったと再認識することができた。

南通大学附属中学の学生さんとの交流は、互いの文化や知識を共有することができ、充実した時間となった。

ホームステイプログラムでは、1日、色々なところに連れて行ってきて、すごく楽しかった。最初は緊張していたが、段々ホストファミリーと仲良くなれて、別れが惜しかった。

しかし、自分の英語能力の欠如から、会話が弾まないことが多々あった。そこは反省して次につなげたい。

6日間すばらしい環境からしっかりとした生活を送ることができた。団長をはじめ、引率者の方々に感謝したい。この体験を通して、中国のイメージ、自分の考え方など、様々なことがわかり、成長することができた。このような機会がもう一度あるならば、ぜひ、もう一回挑戦してみたい。

親のくいつきが最も良かったリニアモーターカーでの移動。私が乗ったときのスピードは300km/h。それだけでも驚きなのに最高速度が400km/hを超えるなんて！いつか日本でも乗れるようになってほしいです。

楽しい時間は普段よりずっと早く進んで行きました。2日間で多くのことを体験し、遂にホストファミリーとの対面。私を招いてくれた女の子は妍（ヤン）。漫画やアニメの好きなおっとりした子でした。その日の夕食は、料理の得意なお父さんが腕をふるってくれました。見たことのないたくさんの料理はとても美味しかったです。ホストファミリーは私を様々な所へ案内してくれ、一緒に会話を楽しんで、私をずっと笑顔にしてくれていました。私が驚くたびにホストファザー、ホストマザーは微笑み、妍（ヤン）は少し得意げな顔で説明してくれました。私はそうやって過ごすのがとても好きでした。ホストファミリーには、感謝の気持ちで一杯です。

ホストファミリーとの別れを最後まで惜しみながら上海へ。別れてしまうと、やっぱり日本と中国は隣の国どうしても遠いと感じました。

たかが1500km、されど1500km。距離だけなら北海道から沖縄県へ行くよりも短いです。ですが、海を隔て、違う言語、文化をもつ中国を私は遠い存在のように思っていました。この派遣を通し、中国という国やそこに住む人々を以前より身近に感じるようになりました。

最後に、ホストファミリー、県庁職員の方々、この派遣で知り合えた団員の皆、素晴らしい夏の思い出を本当にありがとうございました！**谢谢！**

その距離、約1500km

金沢泉丘高校1年 佐藤 桃佳

「さっき出発しなかった？」初めて降り立った中国の地で最初に目にしたのは、沢山の山人々。ワクワクが止まりませんでした。外国人も多いけれど、私には中国人と日本人の見分けなんかつかず、まだ日本にいるような不思議な気分でした。でも一歩空港から出ると、そこはもう全く知らない世界。高い建物、香辛料の香り、見たことのない漢字、日本との時差はたった1時間なのにこんなにも違うものかと驚きました。私の両

新しい人、物に出会って

七尾高校2年 柴田 蒔尋

海外への強い憧れと、自分の視野を広めたいという思いから私は中国派遣を希望しました。団員に決定してから、毎日どうすれば有意義な活動になるだろうかと考えていました。

中国に行ってから空気や人柄がまったく日本と違っていて、少し不安に感じました。しかし、その不安も一瞬で消え去りました。なぜなら、博物館見学や食事などを通して中国の文化や食、人柄に魅了されたからです。

私が最も楽しみにしていた活動も実際に一番印象に残った活動もホームステイでした。私が中国の文化や習慣に興味を持っているのと同様にホストファミリーも日本に興味を持ってくれました。なので、ホストファミリーに向けて作った日本文化についてまとめたフォトブックを渡すとすごく喜んでくれました。おかげで私はより多くの中国人と交流することができました。たった2日間だったのに私に本当の家族のように接してくれるホストファミリーに私も本当の家族と同様の気持ちを抱きました。別れの時、私とホストファミリーはまた会うことを約束しました。

南京では中山陵へ行きました。中山陵に行くことで中国人にとっての孫文への存在や孫文の偉大さを感じることができました。また、392段の階段を登り終えたときに見た景色を見て、孫文は中国の発展を見てきているのだと思いました。上海では、上海博物院へ行きました。ここでは「書」の作品を見ることができました。その中に私の知っている書家の作品があり、自分がその作品を生で見ていることに驚きました。中国は書で有名なので、本場を見ることができ嬉しかったです。

この派遣事業を通して中国の良い点、言語のすばらしさに気づくことができました。また、私も中国人のように自分の意見をしっかり持つようになりたいと思いました。この経験が国際交流への興味を加速させ、将来多くの国の人の役に立ちたいと思いました。企画して下さいの方々、支えて下さった方々に感謝したいです。

Before→After

金沢桜丘高校2年 須藤 龍名

今回の中国の研修、いろいろな所に行き、いろいろな人と関わり、たくさんの事を知りました。その中でもホームステイは良い経験になりました。

僕のこの研修での個人的な目的の一つとしては、実際に見て、本当の中国という国について知ることです。中国は広いので、全て分かり切れたわけではないけれど、行く前と後で、見方が変わった気がします。行く前は、空気が汚い、パクリ、発展している、というイメージがあったけれど、実際行ってみて、確かに遠くはもやがかかって見えにくかったし、ファミマやロー

ソン、マクドナルドもありました。でも空気は、言うほど気にしたりすることは無かったし、お店はパクリはあんまり目立たず、同じ店があるという感じでした。悪い印象も実際行くと、そんな悪くないし、むしろ夜がきれいとか、良い所を知れて、住んでみても楽しいだろうなと思いました。行ってみないと分からない事ってたくさんあるんだろうなと実感しました。もちろんそれと同時に、日本のご飯の方が美味しいとか、交通がしっかりしているとか、良い所を再確認できました。客に丁寧でひかえめな日本に対して、とにかく売り込んでくる中国の店員は、違いが大きすぎて少し面白かった。僕は、後から気づいたんですけど、割れている置物を高い値段で買わされていました。いろいろあったけど、後は全部楽しかったです。

今回の研修で、あまり好印象でなかった中国をだいぶ好きになりました。学んだ事としては、どんな物にも、良さと欠点があるという事で、遠くから情報だけで物を判断して悪く言うのは良くない、自分の目で見て判断するべきだと改めて感じました。意外に悪い所よりも、良い所に人は目が行くのかもかもしれません。全員に嫌われる物は無いと思うから、その一つ一つの物の持つ良さにしっかり目を向けられる人間になって行きたいと思いました。

魅力あふれる中国との違い

金沢西高校2年 宮 歩月

私が少年の翼中国派遣に行くとしたのは家族の推しが強かったからです。正直、あまり乗り気にならず、周りとの温度差を感じていました。

そんな気持ちで一日移動し、次の日にはもっと中国を知りたい、魅力的だと感じるようになった理由や日本との文化の違いを書きたいと思います。

まず冷たいものが少ないという事です。ホテルのバイキングで飲んだ牛乳や果物ジュースまで温かくて驚きました。胃を冷やさない文化だと聞いて私も常温のものを飲んでるとニキビが消えたように感じ、真似したいと思いました。

次はトイレ事情です。トイレットペーパーが流れないのは事前に調べて知っていたのですが、ぼっとな便所の水だけ流れる版を想像すると良いかもしれせん。日本のトイレがいかに恵まれているかひしひしと

感じました。

またホームステイ宅でのシャワーはトイレと同室でカーテン等の仕切りもなく、コンクリートの床に直で流します。水圧も弱く、これもまた日本との違い、いかに恵まれているか感じる事が出来ました。

私は人生で初めて原付バイク三人乗りをしました。安定していたので全く怖くなく、寧ろ楽しんでいました。気づいたことがあります。運転者は沢山クラクションを鳴らします。それは「後ろにいるから抜かすね。」という合図のようなもので鳴らされたら左右に動かさず真っ直ぐ運転します。そんな中国人独自のルールも知れて嬉しかったです。

温度差を感じ、乗り気でなかった自分を今では理解できないくらい濃い経験をしました。日本と距離も歴史も近く長い中国なのに沢山の違いを感じました。だからもっと沢山の国で沢山の文化や風習の違いを感じたいと思うきっかけになりました。

行ってわかること

石川工業高等専門学校2年 山邊 佳代

今回の研修に参加した理由は、ほとんど父の勧めとほんの少しの興味でした。私は様々な企画で留学生や海外の生徒の方たちの受け入れを何度もしてきましたが、自分が行ったのはたったの1度だけでした。今回の研修は、海外に行く、そして去年受け入れた子とまた会えるかもしれないということで良いチャンスだと思いました。

中国に着いて、まず驚いたのは人の多さです。人口が世界でも上位なので当たり前かもしれませんがとにかく多くて、みんなを見失わないようにするのが大変でした。また、外の景色にも驚きました。どこを見ても高い建物が並び、交通量もとても多く隣の車との距離が近いように感じました。初日は移動だけでしたが、上海から南京まで東京から金沢ほどの距離があると聞いたときはさすが中国だなと実感しました。

8月5日の学校訪問が一番緊張しました。自分はどうんな子のお世話になるんだろうや、交流会の出し物が上手いくかな、など不安な気持ちが大きかったです。しかし学校に着いてからそれは杞憂だったかなと思いました。昼食のとき、ホームステイ先の女の子とお母さんがたくさん話しかけてくれました。それだ

けでなく、去年日本に来た生徒の皆さんと受け入れをした子たちで写真を撮ったり、交流会ではゲームの最中に「ガンバッテ！」と日本語で応援をしてくれたりしてとても嬉しかったです。

ホームステイ中は、ホームステイ先の女の子の友達やその家族のみなさんと遊んだり、いろんな場所へ行きました。中国のボードゲームやトランプ、ダンスも一緒に踊りました。友達の子の琴の演奏に圧巻されました。少しだけ教えてもらい演奏しましたが、10秒にも満たないパートをやってもものすごく満足感があったので1曲弾けたらカッコいいんだろうなと思いました。

中国で特に印象に残ったことがバイクに乗ったことです。日本ではまず乗れないので、まさか移動手段がバイクだとは思いませんでした。初めてのバイクのりが2人乗りだったので、強く印象に残りました。はじめは怖かったけど慣れてくると周りの景色を見る余裕もできて嬉しかったです。

今回の中国訪問では、周りの方たちの優しさを感じることができました。ガイドの方は、1つ1つ丁寧に説明してくれて、ホームステイ先の家族や友達の家族の皆さんもあたたかく接してくれました。昨年受け入れた子とその母親の方がわざわざお土産を渡しに来てくれたときは心がじわっとあたたかくなりました。ニュースを見て、よくない印象を持っていても、実際に会ってみると全くそんなことはなく、むしろ好印象を持つような人たちがばかりで自分で中国に来たからこそ知ることができたんだなと思い、今回の研修に参加できて本当に良かったです。

研修をふりかえって 管理員から

本年度の石川少年の翼中国派遣事業は、8月3日(木)から8月8日(火)の6日間の日程で実施し、参加した生徒たちの団結と中国でお世話いただいた関係者の皆様のおかげで、全員無事に帰国することができました。

今回、少年の翼に参加した生徒たちは、初めて海外渡航する生徒や、初めて中国を訪れるという生徒もいましたが、それぞれに日本と異なる文化に驚きつつも、積極的に交流し、お互いの国の文化について理解を深めていました。また昨年の少年の翼事業で江蘇省から石川県を訪れた高校生をホストファミリーとして受け入れた生徒も参加しており、その生徒たちは、今回は逆の立場で江蘇市を訪れ一年ぶりに再会することを、楽しみにしていました。今回の派遣では江蘇省南京市、南通市、上海市を訪問し、それぞれの土地の文化に触れることができました。

1日目は、小松空港から出発し上海浦東空港到着後、リニアモーターカーに乗車し、北陸新幹線よりも速いリニアモーターカーのスピードに生徒はとても驚いていました。高速鉄道で上海から南京へと初日は長い移動となりましたが、生徒たちは、そんなことはものともせず現地でしか味わうことのできない中国の食や乗り物を体験し喜んでいました。また全く日本とは異なる世界を眺める生徒たちの顔からは、不安を感じている様子はありませんでした。むしろこれから自分たちが体験するイベントに対して積極的に取り組もうとする姿勢が感じられました。日本とは異なる気候で気温が高く、生徒たちが体調を崩さないかが心配でしたが、心配とは裏腹に生徒たちは元気そのものでした。もうすでに土地の気候に順応しているようでした。

2日目には南京市内視察ということで南京の町が一望できる中山陵や中国最高峰の総合博物館のひとつである南京博物院を訪れたり、一枚の紙から様々な文様を切り出す中国の伝統文化の紙切り体験をしました。これらの活動を通して生徒たちは、日本より遥かに古い歴史を持つ中国の文化や歴史を実感できたのではないかと思います。

3日目の南通大学附属中学への学校訪問では歓迎式とキャンパス見学、そして昼食や文化交流には、先生や生徒だけでなく、ホームステイ先の保護者の皆さまも参加され、とても和やかなものになりました。また、昨年、石川県でホームステイした江蘇省の生徒も参加しており、ホストファミリーだった生徒と笑顔で再会

を喜び合う姿がとても微笑ましく感じられました。交流会では、石川県の生徒たちが事前研修から準備してきた折り紙やクイズ、ゲーム(フルーツバスケット)などを通じて交流を深め、南通大学附属中学校の生徒たちも、パズルやダンス、歌、椅子取りゲームなどを準備してくれておりました。プログラムが進むにつれてお互いの距離が徐々に縮まっていくのを感じ、プログラムの最後には、石川県の生徒たちと江蘇省の生徒たちと保護者とが一緒になり、「幸せなら手をたたこう」を歌いながら一緒に踊りました。幼い頃から親しんだ歌で笑顔が溢れる様子にとっても感動しました。生徒も交流会を通じて、日本と中国の文化の違いではなく沢山の共通点を見つけることで、更にお互いの理解が深まるプログラムになったと思います。

その後、生徒は、各ご家庭で2泊3日のホームステイをさせていただき、この経験を通して自分ひとりで実際に中国の生活様式を体験することや、一緒に生活することで様々な発見や貴重な経験ができたと思います。

ホームステイを終え、集合した際には、生徒とホストファミリーが家族同然の親しい関係になっていました。笑顔で会話する姿や、抱擁をしたり、泣きながら別れを惜しむ姿がとても印象的でした。生徒たちがホームステイを通じて友情を育み、貴重な経験が沢山できたことは私は実感しました。友好関係を築く上で最も基本となるものは相互理解であり、実際にその国を訪れ、文化に触れ、新しい友人ができたことは、目標の達成と生徒たちにとってとても貴重な経験になったと思います。今回の交流事業で得られた貴重な思い出や経験を生かして、ぜひ今後も様々な形で交流活動を行ってくださることを期待します。

最後になりましたが、江蘇省人民対外友好協会の皆様をはじめ、訪問校の先生方、ホストファミリーの皆様、本事業にご協力いただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

(学校指導課 主任指導主事 藤崎 勝治)

団員からのメッセージ

メ ッ セ ー ジ

- ・今しか出来ない事なので、是非参加して、自分で体験してほしい。
- ・人生で初めて海外に行きましたが、中国に行けて良かった。
- ・日本と隣り合わせで、1時間しか時差がありませんが、中国は、日本と似ている部分と全く違う部分があります。ぜひ自分の目で見てきてください。
- ・参加するのは不安でしたが、実際に中国に行ってみて、良い印象に変わりました。とてもいい経験になると思うので、ぜひ参加してください。
- ・中国の高校生の英語力が高くて驚いた。
- ・中国のいいところをとくと目に焼き付けてきてください。
- ・ホストファミリーがすごく親切でした。
- ・日本では見たことのない料理がたくさんあり、驚きましたが、すごくおいしかった。
- ・友達も増えて良かった。
- ・SNSを通じて帰国後も連絡をとっている。
- ・何年後に、またホストファミリーに会いに中国に行きたい。

アドバイス・反省点

- ・中国語はできなくても英語をちょっと勉強しておけばよかった。(ホストファミリーに)とても親切にしてもらったのに、感謝の気持ちがちゃんと伝えられず、悔しかった。
- ・中国語や英語の語彙力をあげておいたらいい。
- ・筆談が結構通じた。言葉で伝わらなくても、メモ等で伝えられる。
- ・電子辞書を持っていけばよかった。
- ・土産物は色々な種類を持っていくといいと思う。
- ・ホームステイは常に笑顔で、表情でも気持ちを伝えられたらいいと思います。
- ・日本のことや地元のことについて思ったよりたくさん質問された。色々紹介できたら良いと思う。
- ・日本で撮った写真を見せてあげると喜ばれた。

色紙よせがき

6日間、充実していたのは
みんなが良い人だからだと
思っています

沢山 助けてくれてありがとう!!
楽しかったです♡

宮 歩月



初めての中国。たくさんのお名所
に行ったり、ホストファミリーと素敵
な時間を過ごしたりと...とっても
充実しました!
団員のおみなさんにはすごく感謝
しています。ありがとう!
中国の文化なども学べて良かったです。
英語、中国語なども勉強してまた
行きたいです。太好了! 小田 優矢

日本から近い中国ですが
気候や食事など違いがたく
さんありました。ホストファミ
リーから、南通について教え
てもらう事ができて良かったです。
今度は私の家に遊びに来てくださいね。とても充実
して楽しかったです。6日間、
ありがとうございました。

上谷 奏

6日間という短い期間
でしたが、毎日が新しい
発見、初めての経験
でとても楽しかったです。
明るくて優しい人たちが
かりました。ありがとうございました。
ごさります。

山邊 佳代

事前研修からJAPANで
いるJAPANに取っ組み合
う事に楽しかったです。

中国では、日常生活では
体験できないことをたくさん
やる機会が生まれました。
ありがとうございました。

柴田 結舞

JACHI
JAPAN!

中国で過ごした6日間は、とても充実して
毎朝新しい発見があり、本当に貴重な経験も
多かったです。
ホストファミリーと一緒に生活して、様々な
文化の違いを知ることができました。
実際に目で見て、気づかなかった中国を知れて
良かったです。
団員の方々は本当に優しい人達で楽しかったです。
たくさんの方々のおかげで、最高の6日間を
過ごしました。
ありがとうございました!

須藤 龍名

中国での6日間、一生忘れられないような
思い出がたくさんできました。また、昨年
受け入れをしたホストファミリーと再会でき
たことがとてもうれしかったです。
このような素晴らしい時間を過ごせたのは
団員、管理指導員の方、現地の通訳の
方、ホストファミリーのおかげです。
本当にありがとうございました。これから
もっと中国語を学び、もう一度ホストファミ
リーと再会するときには、もっと中国語で会話
できるようにになりたいです。語財 謙!

板坂 梨花

最高の夏をありがとうございました! 教室の
隅にあった4ラミネート紙に本当に
良かったです!

中国についての私の知識は、
直に見て、触れることで、別の見方を
できるようにになりました。全く知らない
世界で、日本と正統村の文化、似て
いるけれど少し違う文化を楽しむ
ことは、とても素晴らしいことでした。
ホストファミリーには感謝して
もらえるくらいのお世話になりました。
また会える日を待っています。

佐藤 桃佳

平成29年度
「21世紀石川少年の翼」(中国・江蘇省派遣) 日程

管理指導員3名/団員8名

	月 日	都市名	時 刻	交通機関	日 程	宿 泊 先
1 日 目	8月3日 (木)	金 沢 小 松 上 海 南 京	10:00 10:10 10:25 11:20 12:00 13:50 15:35 17:00 20:00 21:39 22:10	中型バス 航空機 リニアモーターカー 貸切バス 高速鉄道 貸切バス	県庁集合 県庁発 金沢駅発 小松空港着 結団式(2階出発ロビー) 小松空港 発 (MU558便) 上海浦東空港着(両替) 上海市内へ移動 夕食 上海駅発(G7028) 南京駅着 江蘇中日友好会館着	江蘇中日友好会館
2 日 目	8月4日 (金)	南 京	8:30 ~16:00 18:00	貸切バス	ホテル出発 南京市内視察 (中山陵、南京博物院、切り紙体験等 南京市内見学) 江蘇省人民対外友好協会 歓迎夕食会 (江蘇中日友好会館)	江蘇中日友好会館
3 日 目	8月5日 (土)	南 通	6:45 8:00 10:35 11:30 15:30	貸切バス 電車 貸切バス	ホテル発 南京駅発(D5456) 南通駅着 南通大学附属中学訪問 (歓迎式、キャンパス見学、昼食、 文化交流) ホームステイプログラム	ホームステイ
4 日 目	8月6日 (日)	南 通	全日		ホームステイプログラム	ホームステイ
5 日 目	8月7日 (月)	南 通 上 海	8:20 8:30 11:30	貸切バス	ホームステイ先からホテル集合 南通発 上海着 上海市内視察 (上海博物館、豫園、東方明珠テレビ タワー、バンド等上海市内見学)	上海金水湾大酒店
6 日 目	8月8日 (火)	上 海 大 阪 金 沢	5:30 9:10 13:40 17:00 22:40	貸切バス 航空機 バス	上海浦東空港へ移動 上海浦東空港発(FM825) 関西空港着 関西空港発 金沢駅着 解団式	

平成29年度
「21世紀石川少年の翼」(中国・江蘇省派遣)名簿

管理指導員

NO.	区 分	氏 名	性別	所 属
1	団 長	かい だ ゆかり 戒 田 由香里	女	国際交流課 課参事兼課長補佐
2	管理員	ふじ さき かつ じ 藤 崎 勝 治	男	学校指導課 主任指導主事
3	管理員	まつ もと なつみ 松 本 奈津美	女	国際交流課 主任主事

団 員


NO.	学 校	氏 名	性別	学年	役 割
1	羽 咋 高 校	いた さか り お 板 坂 梨 央	女	2年	リーダー
2	金 沢 桜 丘 高 校	うえ たに かなで 上 谷 奏	女	1年	記録係
3	金 沢 二 水 高 校	おだ なみ ゆう や 小田波 優 矢	男	1年	交流係
4	金 沢 泉 丘 高 校	さ とう もも か 佐 藤 桃 佳	女	1年	交流係
5	七 尾 高 校	しば た ま ひろ 柴 田 蒔 尋	女	2年	サブリーダー
6	金 沢 桜 丘 高 校	す どう りゅう な 須 藤 龍 名	男	2年	生活係
7	金 沢 西 高 校	みや ふ づき 宮 歩 月	女	2年	生活係
8	石川工業高等専門学校	やま べ か よ 山 邊 佳 代	女	2年	記録係

海外県人会青少年育成交流事業（ブラジル派遣）

期間:平成29年7月25日(火)～8月3日(木)

ブラジル連邦共和国の豆知識

- 面積
851.2万km²
- 人口
約2億40万人
- ブラジル石川県人会
 - ・設立 昭和12年4月
 - ・会員数 408家族



*Ishikawa Japan~
~São paulo Brazil*

石川とブラジルの絆 ～世代と海を越えて～

平成29年度 ブラジル派遣団 団長
石川県観光戦略推進部国際交流課長 坂 井 亮 一

海外11か国・地域に16存在する石川県人会の中でも、南米にある県人会は、石川県からの移民とその子孫の方々に構成されていることが特徴です。彼らには、世代交代が進むにつれて母県との絆が薄れるのではないかと強い危機感と共に、青少年の交流を行うことこそが母県との絆の礎だという強い想いがあります。石川県ではこの想いを受け、南米県人会との間で、青少年を相互に派遣する事業を平成18年（2006年）に開始し、これまでに計54名の青少年の派遣、受入を行ってきました。

昭和12年（1937年）のブラジル石川県人会設立からちょうど80年目に当たる今年の夏、同県人会との交流を目的に、21世紀少年の翼訪問団6名は、アメリカのダラス乗り換えで、日本から30時間以上をかけた移動の末、時差12時間のサンパウロを訪れたのでした。移民の方々が、船で1か月以上かけて移動していたことを思えば隔世の感がありますが、さすがに地球の反対側への丸1日以上続く長旅は大変でした。ところが、ブラジル滞在中に受けおもてなしや感動は、そのような大変さをすっかりと忘れさせてくれるものだったのです。

滞在中は、サンパウロ市内のブラジル日本移民資料館や移民上陸の地であるサントス訪問、さらには移民慰霊碑参拝などを通じて、苦難の歴史や移民の方々の壮絶な苦労を学ばせていただき、そうした過去があったからこそ現在の日系の方々のブラジルでの高い評価があるのだと、団員一同理解を深めるとともに感銘を受けたのでした。また、団員それぞれが各々の家庭にお世話になるホームステイ、現地の学校訪問やさよならパーティーなどの交流プログラムでは、感動的とも言える心温まる交流ができました。こうした様々な経験は若い団員の心を震わせ、きっと何かしらの光を灯したはずであり、彼らのこれからの活躍がたいへん楽しみであります。

滞在中に訪問したある団体の日系ブラジル人の方の言葉です。

「日本は、戦争で国土が焦土と化し、立ち直ったと思ったら、地震や津波に襲われ、洪水や台風も多く、最近ではミサイルも周辺に打ち込まれている苦労が多い国。ブラジルはそのような災害がない幸せな国なんだから、日本に援助を求めるのではなく、自分たちの力でしっかりと生きていかなきゃいけない。」

祖国との絆を大切にしながら、ブラジル国民として誇り高く生きる力強さに心を打たれるとともに、自分の生き方が今のままで良いのかどうか、しばし考えてみたりもするのです。

最後になりましたが、訪問団受け入れにたいへん精力的かつ心を込めてお世話をいただいた第13代会長の森永氏をはじめ、県人会の皆様のおもてなしに団員を代表して心から感謝申し上げますとともに、こうした交流が今後も末永く続くことで、世代と海を越えた本県と県人会の絆がさらに強くなっていくことを心から願っております。

私たちのレポート

事前研修・知事表敬訪問

事前研修

日時 7月8日(土) 10:30～
7月9日(日) 8:30～
場所 石川県青少年総合研修センター
内容 団員証交付式
オリエンテーション
団別研修
・交流会の出し物決定、練習
・派遣国について
・語学講座



ブラジルについて：ルーカス国際交流員からの説明



熱心に説明を聞く派遣団員



交流会出し物の練習



交流会出し物の練習



石川県知事表敬訪問：代表あいさつ

知事表敬訪問

日時 7月24日(月) 13:00～
場所 石川県庁 知事室
次第 知事激励挨拶
団員挨拶
ブラジル派遣団員代表 岩崎 芳也
懇談



石川県知事表敬訪問

1日目 7月25日(火)

13:00 小松空港集合

18:30 成田空港発(AA60)

13:40 結団式

16:30 ダラス・フォートワース空港着

14:40 小松空港発(NH3118)

18:55 ダラス・フォートワース空港発

15:55 成田空港着

(AA963)

結団式

場 所 小松空港2階

次 第 団長挨拶

団員代表挨拶

金沢大学附属高校2年 宮川 花綸

石川県海外移住家族会会長挨拶



小松空港にて



小松空港での結団式

宮川 花綸

金沢大学附属高校2年

長い一日であった。小松空港より飛び立ち、成田、ダラスを経由、サンパウロに到着した時には、日本は夕方であったが、12時間の時差で現地は朝、そこから現地研修が始まった。

12時間のフライトを二回経験した我々は、ずっと寝ていたとはいえ、くたくたで、グアルーリョス国際空港到着直後は私も含め、皆、疲労の色がありありと見て取れたことだろう。入国審査を終え、なぜか免税店の中を通り過ぎ、空港の到着ロビーにつくと、石川県人会の会長森永さんと相談役竹下さんに出迎えられた。「よく来ましたね。疲れませんでしたか。」その言葉を聞いた時、「ああ、とうとうブラジルに来たのだ。地球の裏側まで来たのだ。」という深い感慨を覚えるとともに、小松からの長い旅を思い、少し寂しいような心持ちとなった。

はじめにブラジル石川県会館に向かった。ホテルから歩いてすぐで、中に入ると日本が、石川が、息づいているように感じた。日本から運ばれたという本の数々、水彩画をする人々、陶器を作るアトリエ、お餅大会の白、石川県人会の日本や石川を思う気持ちが伝わってきた。

昼食は「なんでもや」でとった。日本風の食事でお寿司もあった。日本の味ではなかったが、おいしくいただいた。また、その周りの東洋人街は日系人が作ったのだと知り、祖国を離れても皆で協力して生きぬいた、何十年も昔の日系人の方の努力に思いをはせた。その後訪れた日本移民資料館ではさらに生々しい当時の人々の息遣いが聞こえた。祖国を慕い、恐ろしい猛獣におびえながらも生き続けた人々、貧しいながらも家族みんなで暮らす、現代のわれわれが学ぶべき移民した日本人の雄姿に触れられたように思う。彼らの姿を受け止め、記帳させていただいた。



成田空港にて



ダラス・フォートワース空港にて

2日目 7月26日(水)

- 7:05 サンパウロ着
- 10:20 ブラジル石川県会館訪問
- 13:00 昼食・リベルダーデ(東洋人街)散策
- 14:30 ブラジル日本移民史料館見学
- 19:00 歓迎夕食会

歓迎夕食会

場 所 マツバラホテル内レストラン
次 第 ブラジル石川県人会会長挨拶
団長挨拶
団員代表挨拶
石川工業高等専門学校2年 中村 陸也



サンパウロ・グアルーリョス空港到着



リベルダーデ(東洋人街)散策



昼食



歓迎夕食会



ブラジル石川県会館にて

3日目 7月27日(木)

- 9:00 カタベント科学博物館見学
- 11:00 ジャパン・ハウス
サンパウロ見学
- 12:20 サッカー博物館見学
- 15:00 ブタンタン毒蛇研究所見学
- 16:30 サンパウロ大学車窓見学



カタベント科学博物館にて



ジャパン・ハウス サンパウロにて



ジャパン・ハウス サンパウロにて



サッカー博物館にて



サッカー博物館にて



ブタンタン毒蛇研究所にて

中村 陸也

石川工業高等専門学校2年

ブラジル最初の朝を迎えました。

朝ご飯を食べた後、カタベントという、サンパウロ内の科学ラボのような施設に行きました。医学系統から生物、物理、科学や、目の錯覚についてなどその内容は非常に充実しており、若い世代や、子供達にもそういった分野に興味を持ってもらおうという意識を感じました。

次にサンパウロの市営サッカー場へ行き、見学したり歴史を教わったりしました。スタジアムはとて大きくて驚いたのですが、スタジアムの座席下に展示されていたサッカーの歴史などについて書かれていた資料がとても面白く、ブラジルの方達のサッカーに対する愛をととも感じました。

サッカー場で昼食をとった後、ブタンタン毒蛇研究所に移動して毒蛇の毒採取を見学会したりそれについての説明を聞いたりしたあと、展示館へ行ってヘビ、トカゲ、毒グモ、サソリなどの実物を見ました。どれもかわいかったりかっこよかったりで感動しました。説明をしてくれた方達は皆聞き取りやすい英語で、難しい単語を避けながら話してくれたので、わかりやすかったです。

1日活動しただけで明日からの活動が楽しみになりました。

4日目 7月28日(金)

- 10:30 モンチセハーの丘見学
- 11:30 コーヒー博物館見学
- 15:30 世界一長い海浜公園訪問
- 19:00 ホストファミリー対面式、夕食会

ホストファミリー対面式

場 所 ブラジル石川県会館
次 第 ブラジル石川県人会会長挨拶
ホストファミリーとの対面
団長挨拶
団員代表挨拶
輪島高校1年 加波 和奏
夕食、懇談

加波 和奏 輪島高校1年

今日はサントスへ行った。サントスは港町なので、海がとても綺麗だった。始めにケーブルカーに乗って展望台へ行くと、サントスの街が全て見えて、太平洋も見ることができた。サントスはとても古くてかわいい建物が多くてすてきな街だった。そのあとコーヒーの取引を昔していたという場所に行った。ブラジルはかつて、世界中のコーヒーをここで取引していた事など、ブラジルのコーヒーの歴史を知ることができて、とても勉強になった。コーヒーもとても美味しかった。サントスのビーチへも行った。石川のビーチとは違ってとても広く、冬なのに暖かい海だった。ビーチでもサッカーをしている人がいたことに驚いた。石川からの移民の方の像もあり、サントスの移民の歴史も感じる事ができた。自然がとても綺麗で良いところだった！！



モンチセハーの丘にて



コーヒー博物館にて



世界一長い海浜公園(日本移民ブラジル上陸記念碑前)にて



ホームステイ対面式



ホームステイ対面式



ホストファミリーと



ホストファミリーと

加波 和奏

輪島高校1年

今日はホストファミリーの方々に色々な所へ連れていってもらった。ホストファミリーの家は、ジャカレイという街にあり、サンパウロからは2時間ほど行ったところにある自然の多い町だった。サンパウロは都会で、建物が多いけど、ジャカレイは建物があまりなく、牛がたくさんいたり、夜は星が綺麗で、とてもいいところだった。同じブラジルでも、全然違う町もあるんだなと思った。日本文化も多くあり、日本文化をたくさん紹介しているお祭りにも連れて行ってもらった。

そこでもたくさん友達ができて、本当に楽しかった。

岩崎 芳也

北陸学院高校1年

今日はホームステイ最終日！ホストファミリーと一緒にサンパウロ市内を歩いて回りました。サンパウロでは毎週日曜日に市内を自転車や歩いて回るのが日課になっていて、道路は歩行者天国となり沢山人で賑わっていました。一日中歩いて疲れたけど、サンパウロの色々な所に連れて行ってもらえました。サンパウロの道路には多くの露店があり、お土産も買えたので、とてもいい一日でした。

明日でホームステイが終わってしまうのがとても残念!!



ホストファミリーと



ホストファミリーと

学校訪問

場 所 ピオネイロ中央学校
 次 第 校長挨拶
 団長挨拶
 団員代表挨拶
 輪島高校1年 加波 和奏
 記念品贈呈



ピオネイロ中央学校にて



学校訪問：折り紙で交流



学校訪問：授業に参加



学校訪問：けん玉で交流



シュラスコ(ブラジル式焼肉)店にて

中村 陸也

石川工業高等専門学校2年

この日はブラジルの小学生から高校生までが通うピオネイロという学校を訪れました。その生徒たちはみんなとてもフレンドリーで、学校に入った直後に一人の男の子が喋りかけてきてくれました。

主に交流をしたのは同い年の生徒達だったのですが、とても大人っぽく見えました。日本の歌や、折り紙やけん玉などの伝統的な遊びを紹介し、一緒に遊びました。予想以上に盛り上がってくれたし、僕自身もそのような遊びをするのはとても久しぶりだったので良い機会になりました。同い年ということもあってすぐに打ち解けられ、最後は「文明の発達に感謝します。」と言って連絡先を交換してくれました。今でも連絡をとっているのですが、遠くであっても強い絆を持たたことを嬉しく思います。

昼食にシュハスコというブラジル式の焼肉を食べたあと、地下鉄を利用してブラジルの各都市のほぼ中心に位置するメトロポリタン大聖堂を訪れました。僕はキリスト教徒ではありませんが、その大聖堂という大建築物の壮大さと荘厳さに圧倒されて感動しました。

その日の最後にさよならパーティーがあったのですが、ホストファミリーの方々ともまた会う約束をしたので寂しさよりも楽しみの方が大きいです。



市営市場にて



テラッコ・イタリアビルから市街展望

さよならパーティ

次 第 ブラジル石川県人会会長挨拶

団長挨拶

団員代表挨拶

北陸学院高校1年 岩崎 芳也

石川工業高等専門学校2年 中村 陸也

交流会

夕食、懇談、出し物披露



さよならパーティ：書道



さよならパーティ：歌・さんぽ



さよならパーティ：書道



さよならパーティ：県人会の皆様と

岩崎 芳也

北陸学院高校1年

ブラジル最終日の今日は、日本移民開拓先没者慰霊碑を訪れ、線香をあげました。

過去に移住して来た人達は、現地の食事に馴染めず命を落としてしまう人もいたそうです。そういった逆境を乗り越えた人達のおかげで今があると話してくれました。ブラジルでは今も継続して移民たちと連携を行っていて、移民を通して日本とも関係を保ち続けている事がすごいと思いました。移住する側もたいへんだけど、送り出しサポートする側もともにたいへんで、どちらも偉大だと思いました。

今日までの7日間で、日系人の方々との交流をし、移民の歴史や文化を学べ、少しでも日系人の方々の事を知ることができてよかったです。7日間の滞在がとてもあっという間でした。



イビラブエラ公園日本館にて



イビラブエラ公園（日本移民開拓先没者慰霊碑参拝）



イビラブエラ公園（日本移民開拓先没者慰霊碑前）にて



グアルーリョス空港にて



グアルーリョス空港にて

解団式

場 所 小松空港1階

次 第 団長挨拶

団員代表挨拶

金沢大学附属高校2年 宮川 花綸



解団式

宮川 花綸

金沢大学附属高校2年

今日で、ホテルで過ごすのも最後である。二度も三度も忘れ物がないかチェックをし、ホテルを後にした。

日本移民開拓先没者慰霊碑に向かった。移民としてブラジルに渡り、ブラジルで亡くなった人のための碑だ。移民慰霊碑には記帳台があった。皆で記帳し、記念写真も撮った。

少し歩くと日本館があった。日本館にはリオ五輪で日本をPRするために持ち込まれた日本人形の数々がひとつところに固めてあり、ずいぶん豪華であった。帰り際、団員の一人が慰霊碑前で撮った写真を見返すと、すべて真っ黒だったというちょっとしたホラーもあったが、無事全員が慰霊碑、および日本館を後にできた。

予定されていた美術館見学は、休館のためできなかったが、最後にお土産を買うためにショッピングセンターを巡った。

楽しいショッピングの後は、つらい別れである。これでブラジルとはお別れ、そう思うとブラジルへのいとおしさが募り、後ろ髪をひかれるようだった。空港で最後に、県人会の人に歌を歌った。「蛍の光」

である。目に涙をためる団員、固く握手する県人会の方、それぞれが一週間で結んだ絆をかみしめていたことだろう。

ブラジルの最後の夜景は中央の座席であったため、見るができなかった。だが、ブラジルの思い出をそれぞれが機内で回顧していたと想像するのは私一人ではないだろう。

皆初めてのブラジルであった。なれない文化の違いに「たじたじ」のこともあった。イメージとは違い、「まごまご」することもあった。スマートフォンが盗まれないか、「ドキドキ」することもあった。日本とは違う道路事情に「ひやひや」することもあった。でもそれ以上に未知のことへの「ワクワク」した気持ちと、県人会の方々のサポートがあればこそその「のびのび」とした時間が我々を楽しませてくれた。

今回得た経験や知識を今後60年ほどの人生に役立てていき、世界に羽ばたく人材になりたい。

最後に、派遣して下さった石川県の職員の方々と、引率して下さった団長、管理員の正和さん、私たちを温かく受け入れて下さった県人会の方々、ホストファミリーの皆さん、陰ながら見守ってくれた家族、そのほか今回我々高校生団員がブラジルへ行くにあたって協力して下さった皆さんに感謝の意をこの場を借りて表したい。



ジャパン・ハウス：サンパウロ



サンパウロ市街地

交流の思い出

ブラジル研修を終えて

北陸学院高校1年 岩崎 芳也

僕がブラジルに来た一番の理由は父に「ブラジル行ってみるか」と言われたことが大きいです。僕はその言葉を聞いたときは正直、父が何を言っているのか一回でわからないほど驚き、まさか本当にブラジルに行く事になるとは思いもしませんでした。

ブラジルは日本から約1万3千キロの場所にあり、約35時間のフライトは国外に出たことのない僕にとっては初体験の辛さでした。こんなに辛いなんてイメージすらしていなくて、数字で聞いているだけではわからない「ブラジルまでの遠さ」が実感できました。

今回の研修は、地球の裏側へ行ってみたいと学べない事を沢山学べるとも貴重なものでしたが、その中で特に強く印象に残ったものが二つあります。

一つはホームステイです。僕の受け入れをしてくれた家族は、日本語も話すことが出来て、沢山の事を教えてくれました。いきなりきた僕をホストファミリーはすごく歓迎してくれて、ブラジルの色々な場所に連れていってくれました。

フェイラと呼ばれる朝市では、日本で見たことのないフルーツを売っていたり、日本食が売っていることにも驚きました。僕のために計画を立ててくれて、とても充実した時間を過ごすことができました。

二つ目は、移民慰霊碑を訪れた時に学んだ移民についてです。ブラジルは日本にとって「遠くて近い国」と言われるほど日本と関わりの深い国です。今も日本がブラジルと深い関係を保っているのは、過去にブラジルに渡り子孫を残してきた移民の方々のおかげです。日本とは違うブラジルの環境での移民たちの努力が現代まで続いているということがすごいと思いました。

ブラジルで出会った人々は、皆優しく、ブラジルは僕にとって第二の故郷となりました。

ブラジルでの活動をサポートしてくれた県人会の皆さん、ホストファミリーの皆さん、県庁職員の皆さん、そして「ブラジルに行ってみないか？」と言ってくれた父に感謝したいです。

ひとつの派遣で感じるもの

石川工業高等専門学校2年 中村 陸也

今回の21世紀少年の翼で訪れたブラジルは、ぼくにとって初めての海外でした。

前日、石川県知事を訪問させていただいた時には、まだ自分が海外へ行くということに対する実感があまり無かったのですが、当日空港に集合して結団式を終えた時に、自分が派遣団員としてブラジルに派遣されるのだということを、責任感と同時にひしひしと感じました。

日本の裏側ということもあり、飛行時間はとても長かったです。しかし、そのかいあって到着した先のブラジルでは、バナナの木が当たり前の景色と、信号で運転手たちがお喋りする文化に驚きの連続でした。人の顔より大きなキャンディも売られていました。

でも、そんな中で僕が強く感じたことが二つあります。

一つ目は、違う国の異なる文化の中にもやっぱり似ていることや、共通していることがあるということです。挨拶のしかたは全く違いますが、そこに込められた歓迎や喜び、別れに対する悲しみは日本人のする挨拶となんら変わりはないと感じました。

二つ目は、人との出逢いに感謝したいということです。派遣先のブラジルでは本当に沢山のの方々にお世話になり、沢山の友達ができました。距離は離れていますが、この偶然がかさなってできた繋がりを日本にしながらも大切にしていきたいです。そしてブラジルだけでなく今回の派遣に加わったことで、日本の団員たちとも出逢うことができました。たった10日間だけだったけれど一緒に派遣され、同じ時間を過ごせたことを本当に幸せに思います。

最後に、今回の派遣に関わって下さった方々に心から感謝します。ありがとうございました。

研修をおえて

輪島高校1年 加波 和奏

今回のブラジル派遣に参加させていただいて、とても多くの事を学ぶことができました。私は以前から、国際交流や海外派遣に興味があって、この事業に参加することで、自分の将来や進路につなげることができたらいいなと思って、応募しました。

ブラジルという国は、日本の反対側にあるので、どんな体験ができるのか想像もつかなかったので、とても興味がありました。ブラジルの事を事前にたくさん勉強した時、ブラジルはとても治安が悪く、危険なところでもあると聞いたので少し不安でした。でも、ブラジルの人たちはみんな温かくて、レディーファーストや、初対面でも積極的にコミュニケーションをとってくれる人がたくさんいる素敵な国でした！

ブラジルはとても暑い国だと思っていたけど、冬のブラジルは意外と涼しくて、夜は少し寒かったことに驚きました。その他にも、ヨーロッパのような可愛い街並みが多いことや、イタリア料理も美味しいことなど、行かなかったら絶対に知らなかった事がたくさんありました。

ブラジルは、私たちが住む石川県からちょうど100年前に移民が渡った国でもあります。そのため、日系の方々が多く、石川県人会の方々もとても優しく接してくれました。

ブラジルでは日本文化がとても多く知られていて、日本語のデザインのものや、日本料理店が多いことに驚きました。ブラジルで出来た友達もみんな、日本の文化に興味があると言っていました。

ホームステイでは、ホストファミリーの皆さんが本当に親切に温かく迎えてくれました。一生懸命日本語で話してくれたり、街のことや文化の事などを丁寧にたくさん説明してくれたり、ホストファミリーの子供達は、日本を訪れた時の事や、好きな日本文化の事などをたくさん話してくれて、本当の家族のようでした。

ホストファミリーの皆さん以外にも、ブラジルではたくさんのお会いがあって、たくさんのお友達ができ、最後の日には本当に帰りたくないと思いました。友達達は皆、次は日本に遊びに行くね！と言ってくれたので、私もまたいつか会いに行きたいと思いました。

ブラジルでの経験は私の将来の事を具体的に考えるきっかけにもなったし、本当に本当に一生の大切な思い出になりました。

この経験で学んだ事を活かして、次に繋げて行きたいと思います！！

日本人というアイデンティティ

金沢大学附属高校2年 宮川 花繪

「世界に羽ばたく人材に」「グローバル人材を目指して」学校でよく聞くセリフである。我々の世代が大人になるときは、世界はグローバル化がますます進み、日本企業でさえ、海外の人とともに仕事をするというケースは増えてくるだろうと予想されている。

ここで私の将来の夢を紹介しておく、研究者として海外の人とかかわって仕事をしていくことである。それは、海外の研究所で研究することであったり、国際学会に参加することであったりする。そして、今あげた二つの例は、海外の人の中で過ごすということであり、100年前のブラジルに移民した人々と状況が似ているのではないかと思う。私は今回、ブラジルで移民した方々の足跡をたどることで私がグローバル化する今後の世界でどのようにふるまっていべきか考えたいと思った。

ブラジルに渡った人の足取りを辿っていかうと思う。移民する人が乗った船はサンパウロに近い港町サントスに到着、そこから大都市サンパウロに向かっていく。サンパウロでは日本人という同じアイデンティティを持った人同士でコミュニティを作る。その一つの形が県人会であったり、東洋人街（旧日本人街）であったりする。日本人という同じアイデンティティを持つ横のつながりは強く、石川県の人がブラジルに行ってちょうど節目となる今日においても石川県人会が機能していたり、日系の学校、赤間学園があったりする。

この例からわかることは、海外に出てほかの民族やバックグラウンドを持つ人とかかわっていく中でも日本人としてのアイデンティティを持ち、横のつながりを大切にすることが重要だということだ。

実際、石川県人会の方々も皆、ポルトガル語がお上手で、中には日系ではない人と結婚している方もいらっしやう。我々「日本人」からすれば彼らは「外国人」である。でも、「元日本人」として、それをアイデンティティとしていらっしやうところを見れば、同じアイデンティティを持つということはどれほど彼らの中で大きな心の支えとなっているのかわかる。

今回の研修を通して学んだことを、将来の糧としていくために、これからもさらなる努力をしていく所存である。

最後に、我々の研修を支えてくださったすべての方に感謝の意を表したいと思う。

研修をふりかえって 管理員から

平成29年度21世紀石川少年の翼（海外県人会青少年育成交流事業）ブラジル派遣事業を、多くの関係者の皆様のご支援とご協力のおかげで、無事に終えることができましたことに心より感謝申し上げます。

今年は、ブラジルへ石川県人が移住してからちょうど100年、ブラジル石川県人会が創立80周年目にあたります。この記念すべき年に、個性豊かな団員たちとブラジルを訪問する機会にめぐまれたことをとても嬉しく思っています。

7月8日・9日に行われた事前研修で初めて顔を合わせました。初めは少し遠慮がちな雰囲気がありましたが、団員が4名という少人数なこともあり、すぐに打ち解けていました。現地を使うポルトガル語を真剣に練習し、現地での交流会を楽しみにする様子に国際交流の懸け橋としての役割をしっかりと果たしてくれそうだと大変頼もしく感じました。

そして、いよいよブラジルへ出発。小松空港を出発してから、東京・ダラスで飛行機を乗り換えて、約30時間という長い移動時間を経てブラジルに到着した私たちをブラジル石川県人会の方々がとても温かく迎えてくれました。6泊7日という滞在期間は、県人会の皆様がとても充実したプログラムを準備してくださったおかげであつという間に過ぎてしまいました。

最初に訪れたのはブラジル石川県会館です。会館ではちょうど水彩画の教室が開かれているところでしたが、日系人ではない方もいらっしゃいました。サンパウロでは、他の県人会でも日本文化の教室を開催しているようですが、会員だけに限定しているところが多い中、石川県会館では希望者が誰でも受講できるということで、非常にありがたく思っているという話を聞き、日系社会というコミュニティの中で日本文化を受け継ぐだけでなく、地域社会へ日本文化を普及しようと尽力される県人会の皆様の活動に心から尊敬の念を覚えました。

その後訪れたブラジル日本移民資料館では日本移民の苦難と成功の歴史を学び、日本が世界の他の地域に

先駆けてオープンさせた「ジャパン・ハウス サンパウロ」では、週末には入場制限をしなければならないほど人気があり、来館者は大多数がブラジル人で日系人は2割程度に過ぎないという話を聞きました。日本から移住した先人たちの大変な苦勞により、ブラジルにおける日本人や日本社会への信頼や社会的地位が築かれ、そして今の日本への興味・関心につながっているということがとてもよくわかり、言葉にできない感動がこみ上げてきました。他にも、ブタントンの毒蛇研究所やサッカー博物館、サントスなど普通の旅行では体験することのできない貴重な経験をさせていただきました。

そして、4日目から、団員たちが何よりも楽しみにしていたホームステイがスタートしました。ホームステイ対面式では、楽しみな表情の中に、どんな家庭に行くのか、自分の英語や覚えたポルトガル語で会話ができるのかなど、やや不安や緊張もにじませた団員達、翌々日、満面の笑みで戻ってきたのを見て、とても安心うれしく思いました。また、別れの時に団員とホストファミリーとが、再会の約束やこれからの連絡方法など様々な約束をしながら、互いになかなか離れることのできない様子には本当に感動しました。

また、学校訪問においても、準備した交流内容で場を盛り上げ、わずかな時間の中でも友達を増やしていました。今回の訪問で、団員達にとっては地球の反対側にあるブラジルが非常に身近な国になったと思っています。今後も、ホストファミリーや新しくできた友達たちと交流を続け、再会できる日が来ることを心から願っております。

最後に、今回のブラジル滞在中ずっとご案内くださり、日程調整からホームステイの手配まできめ細やかな配慮をいただきました森永会長をはじめとするブラジル石川県人会の皆様、同行取材をしてくださった森角記者、事業実施にご協力にすべての方に改めて厚く御礼申し上げます。

（県国際交流課 専門員 正和潤子）



団員からのメッセージ

メ ッ セ ー ジ

- ・ブラジルは簡単に行ける国ではないのでぜひ行ってほしい。
- ・英語なども身振り手振りで伝わる。
- ・10日間という短い時間の中で、大切なことをたくさん学べた。短い時間なので、後悔のないように楽しんでほしいです！
- ・少年の翼プログラムは人生でそう何度も体験できるわけでない貴重な経験です。後悔のないようにやりたいと思ったことにはどんどん挑戦してほしいです。
- ・恥ずかしがらず堂々と話してみてください。
- ・ブラジル日本移民資料館を訪れたら、2017年の団員達のコメントを探してみてください。
- ・有意義に事業を活用するには「課題意識」を持つと良いと思います。ブラジルで何を学ぶのか、何を体験したいのか、事前に十分に調査して本番に臨むことをお勧めします。

アドバイス・反省点

- ・ホームステイ先の家族に自分のことを紹介できるようにしておく。
- ・飛行機の時間が長いので気をつけた方がよい。
- ・お金の使い方の感覚をつかむのに時間がかかったので、行く前に勉強しておけばよかった。
- ・サングラスはあった方がよい。
- ・ケータイの容量は明けておいた方がよい（写真をたくさん撮るので）。
- ・機内はとても寒いし、ブラジルは冬なので、楽な長ズボンと脱ぎ着が簡単な長袖の上着は必須。
- ・海苔とふりかけが喜ばれる。
- ・ポルトガル語の重要性はあまりないが、簡単な表現をマスターしておくと思えます。
- ・お小遣いは100ドル（1万円程度）で十分でした。
- ・硬貨は記念になるので残っても良いと思います。
- ・何回も日本人を受け入れているホストファミリーが多いので、お菓子や柔らかいティッシュ、アクセサリなどがお土産にいいと思う。
- ・時差ボケに気をつけよう。

色紙よせがき



平成29年度 「21世紀石川少年の翼」(ブラジル派遣) 日程

管理指導員2名/団員4名

	月 日	都市名	時 刻	交通機関	日 程	宿 泊 先
1 日 目	7月25日 (火)	金沢 小松 成田 ダラス	(12:00) (12:15) 13:00 13:40 14:40 15:55 18:30 16:30 18:55	ジャンボタクシー NH3118 AA60 AA963	(金沢駅西口バス駐車場集合) (金沢駅西口発) (小松空港着) 小松空港集合 結団式 小松空港発 成田空港着 成田空港発 ダラス・フォートワース空港着 ダラス・フォートワース空港発	(機中泊)
2 日 目	7月26日 (水)	サンパウロ	7:05 9:15 10:20 13:00 14:30 19:00	貸切バス	グアルーリョス国際空港着 ホテルチェックイン ブラジル石川県会館訪問 昼食・リベルダーデ(東洋人街) 散策 ブラジル日本移民資料館見学 歓迎夕食会	マツバラホテル
3 日 目	7月27日 (木)	サンパウロ	8:30 9:00 11:00 12:20 13:00 15:00 16:30 18:30 20:00	貸切バス	ホテル発 カタベント科学博物館見学 ジャパン・ハウス サンパウロ見学 サッカー博物館見学 昼食 ブタントン毒蛇研究所見学 サンパウロ大学車窓見学 夕食 ホテル着	マツバラホテル
4 日 目	7月28日 (金)	サンパウロ サントス サンパウロ	8:30 10:30 11:30 13:30 15:30 19:00	貸切バス	ホテル発、サントス市へ移動 モンチセハーの丘見学 コーヒー博物館見学 昼食 世界一長い海浜公園訪問 ・日本移民上陸記念碑 ・日本移民100周年記念碑 ホストファミリー対面式、夕食会	ホームステイ
5 日 目	7月29日 (土)				ホームステイプログラム	ホームステイ
6 日 目	7月30日 (日)	サンパウロ	21:00		ホームステイプログラム ホームステイ先からホテルに集合	マツバラホテル

	月 日	都市名	時 刻	交通機関	日 程	宿 泊 先
7 日 目	7月31日 (月)	サンパウロ	8:30 9:00 12:00 14:30 19:30	貸切バス	ホテル発 学校訪問 (ピオネイロ中央学校) 昼食 サンパウロ市内視察 市街展望 ・セー広場 ・メトロポリタン大聖堂 ・市営市場 さよならパーティ	マツバラホテル
8 日 目	8月1日 (火)	サンパウロ	8:30 9:00 11:00 16:00 17:00 18:00 20:50	貸切バス AA962	ホテルチェックアウト、出発 イビラブエラ公園訪問 ・日本移民開拓先没者慰霊碑参拝 ・日本館見学 昼食・ショッピングセンター 空港へ移動 グアルーリョス国際空港着 夕食 グアルーリョス国際空港発	(機中泊)
9 日 目	8月2日 (水)	ダラス	5:05 10:55	AA175	ダラス・フォートワース空港着 ダラス・フォートワース空港発	(機中泊)
10 日 目	8月3日 (木)	成田 羽田 小松 金沢	14:00 15:00 16:30 18:05 19:05 19:30 20:30	リムジンバス JL191 ジャンボタクシー	成田空港着 成田空港発 羽田空港着 羽田空港発 小松空港着 解団式、解散 (小松空港発) (金沢駅西口着)	

平成29年度
「21世紀石川少年の翼」(ブラジル派遣) 名簿

管理指導員

NO.	区 分	氏 名	性別	所 属
1	団 長	さか い りょう いち 坂 井 亮 一	男	石川県国際交流課 課長
2	管理員	しょう わ じゅん こ 正 和 潤 子	女	石川県国際交流課 専門員

団 員

NO.	学 校	氏 名	性別	学年	役 割
1	北 陸 学 院 高 校	いわ さき もと や 岩 崎 芳 也	男	1 年	記録係
2	輪 島 高 校	か ぼ わ かな 加 波 和 奏	女	1 年	サブリーダー
3	石川工業高等専門学校	なか むら りく や 中 村 陸 也	男	2 年	生活・交流係
4	金沢大学附属高校	みや かわ か りん 宮 川 花 綸	女	2 年	リーダー

ロシア・イルクーツク州青少年交流事業（受入）

期間：平成29年7月22日(土)～29日(土)

ロシア・イルクーツク州の豆知識

- 位 置
東シベリアの南部に位置し、クラスノヤルスク地方、トゥーバ共和国、ブリヤート共和国、サハ共和国、チタ州と接している。
- 面 積
南北1,400km（北緯約51°～64°）、
東西1,500km（東経約95°～119°）にわたり、
面積は77.5万km²
- 人 口
約240万人
- 州 都
イルクーツク市
- イルクーツク州ホームページ
<http://www.govirk.ru/>（ロシア語）

*Ishikawa Japan~
~Irkutsk Oblast Russia*

団長あいさつ

ロシア・イルクーツク州訪問団 団長
イルクーツク州教育局 局長
ペレグドワ・バレンチナ

谷本知事をはじめ、イルクーツク州からの訪問団の受入を担当して下さった皆様に感謝申し上げます。

素晴らしい日本への滞在は、毎回、参加生徒のみならず引率者にとっても大変満足のいく、興味深くかけがえのない経験となっています。

今回の訪問では、私たちは日本の美を楽しむだけでなく、素晴らしい日本の文化や慣習について詳しく知る機会に恵まれました。金沢市では兼六園・金沢城公園や石川県立伝統産業工芸館を、能登ではのとじま水族館など様々な石川県の名所を訪問しました。伝統的な和楽器である太鼓、琴、三味線の演奏にも喜んで挑戦しました。日本の同世代の生徒との交流は多くの喜びをもたらし、ロシアと日本の間で固い友情が生まれました。

訪問団に対する素晴らしい受入をして下さったことに対し、改めて谷本知事に感謝申し上げますとともに、滞在中に過ごしたかけがえのない時間、興味深い滞在プログラム、そして皆様の親切さに対しお礼を申し上げます。2018年8月にイルクーツクで開催される青少年国際フォーラムで石川県の代表の生徒に会えることを楽しみにしています。

交流の思い出



成田空港着



和太鼓体験



和太鼓体験



白山比咩神社



白山比咩神社



いしかわ動物園



石川県知事表敬



いしかわ動物園



石川県庁訪問



のと海洋ふれあいセンター



見附島



白米千枚田



のと海洋ふれあいセンター



輪島キリコ会館



すず塩田村



すず塩田村



輪島高校訪問



輪島高校訪問



琴体験（輪島高校）



琴体験（輪島高校）



輪島塗体験（輪島高校）



輪島塗体験（輪島高校）



長町武家屋敷跡散策



兼六園



兼六園



兼六園



金沢城公園



伝統産業工芸館



水引ぼち袋作り体験



三味線体験



琴体験



浴衣着付け体験



翼OBOGとの交流



翼OBOGとの交流



翼OBOGとの交流



ホストファミリー対面式



ひがし茶屋街散策



ホストファミリー対面式



ホストファミリー対面式



ホームステイ（久保出さん）



ホームステイ（中村さん）



ホームステイ (保科さん)



ヤマト醤油味噌蔵パーク



ヤマト醤油味噌蔵パーク



さよならパーティー準備



さよならパーティー準備



さよならパーティー



さよならパーティー



さよならパーティー

感想文

イルクーツク市第3中等教育学校
フレブニコフ・キリル

7月23日から29日まで、私はイルクーツク州から出発した青少年訪問団とともに日本の石川県に滞在し、そこで「日出ずる国」と言われる日本、そして日本人に対するステレオタイプが変わりました。日本は単なる小さな国ではなく、おもてなしの国だということがわかりました。ハイテクで巨大な空港に到着してすぐにこの国に魅了され、そこで私がお礼を伝えたい相手である素晴らしい通訳してくれたアンナさんと石川県職員の橋場さんに出会いました。

日本人が持つ、世界で最速の新幹線を開発した熟練した技術から、ごみの分別に対する意識の高さ、また日本に残る美しい自然、多数の自動販売機の美味しい飲物に至るまで、私は日本での全てのことが気に入りました。私たちの滞在中のプログラムは興味深いものでした。いしかわ動物園、のとじま水族館、能登半島、キリコ会館、輪島高校での交流、兼六園・金沢城公園、そして金箔のソフトクリームのことに残っていますが、和太鼓や琴の演奏、輪島塗の沈金体験など、何か自身の手で作るものについては特に記憶に残っています。私の記憶の中で鮮明に残っているのはホストファミリーと過ごした時間です（残念ながら短い時間でしたが）。また、昨年イルクーツクを訪問し私の家に滞在した生徒に再び会える機会を設けていただいたことに対しては、主催者に格別の感謝を伝えたいです。今回の訪問はかけがえのない経験となり、自己研鑽や学びへの刺激となりました。

イルクーツク第47中等教育学校
リズマン・マリナ

7月23日に私たちは日本の石川県に向けて出発しました。金沢市での滞在で、私と友人は日本や日本文化などについて多くのことを知り自身の視野が広がりました。

深く感銘を受けたのは、能登への訪問であり、私たちはのとじま水族館やすず塩田村、白米千枚田、キリコ会館を訪れ、日本の伝統的な宿泊施設である旅館に泊まりました。

浴衣を着たり、日本の伝統的な楽器である和太鼓や琴、三味線を演奏したりしたこともとても楽しかったです。とりわけ、日本のホストファミリーとの出会いや輪島高校への訪問について記憶に残っており、これらを通して日本の暮らし方や教育について多くのことを知っただけではなく、同年代の若者と知り合う機会を得ました。私たちはお互いに友好を深め、現在はSNSを使って交流を続けており、いつかまた会えることを期待しています。

今回の滞在プログラムを作ってくれた全ての方に感謝を伝えたいです。どこへ訪問しても、あらゆる場所で私たちのことを気遣い注意を払って同行してくれました。この青少年交流は必要なものであり、将来も続けていくことが大切だと強く感じています。

平成29年度
「21世紀石川少年の翼」(ロシア・イルクーツク州訪問団受入) 日程

管理指導員2名/団員7名

	月 日	時 刻	日 程	宿 泊 先
1 日 目	7月22日 (土)	23:55	イルクーツク空港発 S7 3216 (現地時間)	
2 日 目	7月23日 (日)	6:05 13:30 14:00 15:44 16:44 19:24 21:55 22:30	ウラジオストク空港着 (現地時間) ウラジオストク空港発 S7 565 (現地時間) 成田空港着 (40分早く到着) 成田空港発 (成田エクスプレス34号) 東京駅着 夕食 東京駅発 (北陸新幹線かがやき517号) 金沢駅着 宿舎着	石川県青少年総合研修センター
3 日 目	7月24日 (月)	10:00 11:30 12:30 14:30 16:30 17:30	和太鼓体験 (浅野太鼓) 昼食 いしかわ動物園 白山比咩神社 知事表敬 宿舎着	石川県青少年総合研修センター
4 日 目	7月25日 (火)	10:30 12:00 14:30 17:30 18:00	のとじま水族館 昼食 のと海洋ふれあいセンター 見附島 宿舎着	珠洲温泉のとじ荘
5 日 目	7月26日 (水)	9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 16:30 17:00 18:30	すず塩田村 白米千枚田 輪島キリコ会館 昼食 学校訪問 (輪島高校) (琴体験、輪島塗体験) 千里浜なぎさドライブウェイ ショッピング 宿舎着	石川県青少年総合研修センター

	月 日	時 刻	日 程	宿 泊 先
6 日 目	7月27日 (木)	8:30	長町武家屋敷跡散策	ホームステイ
		9:00	兼六園・金沢城公園	
		10:00	伝統産業工芸館見学・水引ぼち袋作り体験	
		12:00	昼食	
		13:30	琴・三味線体験 (国際交流ラウンジ)	
		14:30	浴衣着付け体験 (国際交流ラウンジ)	
		17:00	ひがし茶屋街散策	
		19:00	ホストファミリー対面式	
7 日 目	7月28日 (金)		団 員：ホームステイ 管理員：県内視察 ホームステイ先から集合	石川県青少年総合研修 センター
		14:00	ヤマト醤油味噌靴パーク	
		16:45	さよならパーティー準備 (ブリヌイ作り)	
		19:00	夕食 (さよならパーティー)	
8 日 目	7月29日 (土)	8:00	宿舎発	
		8:48	金沢駅発 (北陸新幹線506号)	
		11:20	東京駅着	
		12:03	東京駅発 (成田エクスプレス23号)	
		12:58	成田空港着 昼食	
		15:40	成田空港発 S7 566	
		19:10	ウラジオストク空港着 (現地時間)	
		20:25	ウラジオストク空港発 S7 3215 (現地時間)	
		22:45	イルクーツク空港着 (現地時間)	

平成29年度
「21世紀石川少年の翼」(ロシア・イルクーツク州訪問団) 名簿

管理指導員

NO.	区 分	氏 名	性別	所 属
1	団 長	ペレグドワ・バレンチナ	女	イルクーツク州教育局 局長
2	管理員	フィルストフ・ビクトリア	女	イルクーツク州教育局 普通教育部副部長

団 員

NO.	学 校	氏 名	性別	ホームステイ先
1	イルクーツクシュタイナー中等教育学校	ベレス・フョードル	男	中 村 陸 也
2	イルクーツク市第3中等教育学校	フレブニコフ・キリル	男	
3	イルクーツクシュタイナー中等教育学校	シンチュリナ・バレンチナ	女	久保出 実 礼
4	アンガルスク市第1中等教育学校	フィルストフ・アナスタシーア	女	
5	イルクーツク市第2中等教育学校	サハロフ・マリナ	女	保 科 美 怜
6	イルクーツク第47中等教育学校	サーリナ・アリーナ	女	
7	イルクーツク第47中等教育学校	リズマン・マリナ	女	上 谷 奏

韓国・全羅北道青少年交流事業（受入）

期間：平成29年8月4日(金)～9日(水)

韓国・全羅北道の豆知識

- 位置
朝鮮半島南西部に位置し、ソウルから約240kmの距離
- 面積
面積は8,067km²
- 人口
約187万人
- 地方行政区域
6市、8郡、2区、241邑・面・洞に区分
- 道庁所在地
チョンジュ
全州市
- 全羅北道ホームページ
<http://jp.jeonbuk.go.kr>（日本語）

*Jeollabuk-Do Korea~
~Ishikawa Japan*

代表あいさつ

韓国・全羅北道訪問団
永善中学校教諭
コ・キシキ

2017年、たまたま、教育庁からの文書で全羅北道と石川県との青少年交流事業についての案内を見ました。数年前から韓日間の青少年交流に関心があり、あちこち調べていたところでしたので良い機会だと思いました。

8月4日～8月9日の5泊6日の全羅北道－石川県青少年交流を実施するため、8月4日未明、わくわくしながら仁川空港へ向かうバスに乗りました。4時間かけて仁川空港に到着した時の生徒たちは緊張が半分、期待が半分という表情でした。

8月4日、我々が到着した小松空港では、石川県の安村さんとカン・ミンジョン国際交流員が迎えに来てくれました。互いに簡単な自己紹介などをしながら40分ほどかけて金沢市へ向かいました。金沢市には石川県庁があり、そこで谷本正憲知事を表敬訪問しましたが、県知事は韓国についての良い思い出と韓日の青少年間における交流の重要性について我々に教えてくれました。その後、我々は、石川県を代表する兼六園、県立歴史博物館、金沢城、21世紀美術館を見学し、この日の最後の日程であるホームステイ家族との対面する場へと移動しました。我々が到着したときには子供たちを迎えてくれるホームステイ家族たちがテーブルに座っており、ホームステイ家庭のテーブルに韓国の生徒たちが1～2人ずつ座りましたが、互いにまだ不慣れな様子でした。6日午後、2日間離れていた子供たちと再会しました。戻ってきた子供たちの表情には、心温まる笑顔とホストファミリーに対する感謝の心があふれていました。我々は名残惜しさに団体写真を撮りましたが、互いに心残りなことがたくさんある子供たちとホストファミリーはなかなか話を終えることができませんでした。ソジンのホストファミリーの子どもが泣き出してしまったときにはとてもうろたえてしまいましたが、互いにどれほど心残りなのかがよくわかる時間でした。

8月8日、石川県での青少年同士の公式行事に備えて前日から生徒たちとリハーサルしました。韓国について知ってもらおう公式的な行事ということで生徒たちはとても緊張していました。校内で立ち寄った図書館はまるで整った書店のような様子で、とてもよく整理された書籍と生徒たちに様々な分野に関心をもってもらえるよう細やかな工夫が凝らされており、生徒への配慮が行き届いていると感じました。簡単なあいさつの後、放課後活動を見学しました。吹奏楽部、テニス部、柔道部、茶道部の生徒たちの専門家にひけをとらない素晴らしい実力を目の当たりにして、私たちは開いた口がふさがりませんでした。しばらく日本の教育について学習した私たちは、韓国で準備していた公演を見せるために体育館に集まりました。韓国語を知らない日本の生徒たちのために、生徒たちは日本語の台本を用意していました。慣れない日本語でしたが、その場にいた日本の教師たちは口々に素晴らしいとほめてくれました。韓国の伝統文化を芸術中学校の生徒たちが、若者文化は永善中学校の生徒たちが準備して公演をしたところ、日本の子どもたちはとても興味深そうにずっと見てくれました。

学校交流を終えた後、私たちは韓国へ帰るために大阪へ向かいました。移動中、日本の子どもたちとのホームステイ、学校交流で心残りなこと等について沢山の話をしました。生徒たちには、一度結ばれたつながりを絶やすことなくオンラインを通じて今後も繋がっていけるよう日本の子どもたちのEメールアドレスやSNSをもらっておくように伝えていました。空港でも、韓国に到着した後もずっと携帯で連絡をしている生徒たちの様子にとっても心が温かくなりました。

歴史的、政治的には親しくなるのが難しい日本ですが、5泊6日という短い時間の中で、韓国と日本の子どもたちが互いに理解し合い、慕わしく思う様子に、教師として様々な感情が浮かんできました。今後の未来を生きていく子どもたちが互いにもっと理解し合うことで、共に成長していく様子を見ることができるよう良いプログラムへ発展していくことを願っています。

交流の思い出



小松空港到着



石川県知事表敬



石川県知事表敬



石川県庁訪問



石川県庁訪問



21世紀美術館



兼六園



ホームステイ対面式



ホームステイ対面式



ホームステイ対面式



ホームステイ対面式



ホームステイ (藤田さん)



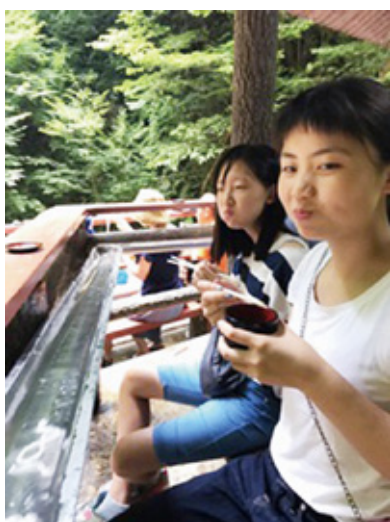
ホームステイ (馬場さん)



ホームステイ（河村さん）



ホームステイ（中村さん）



ホームステイ（鈴木さん）



ホストファミリーとお別れ



翼OBOGとの交流



箔一（金箔貼り体験）



翼OBOGとの交流



翼OBOGとの交流



箔一（金箔貼り体験）



夕食（お好み焼き）



のとじま水族館



のとじま水族館



妙成寺



妙成寺



千里浜なぎさドライブウェイ



鶴来中学校訪問



鶴来中学校訪問



鶴来中学校訪問



鶴来中学校訪問



鶴来中学校訪問



鶴来中学校訪問



茶道体験（鶴来中学校）



関西空港から帰国

6日間の日本交流活動をして

永善中学校3年 ハン・ソヨン

6日間の日本交流活動をして

全羅北道と石川県が主催する21世紀石川少年の翼事業に、高敞永善中学校の生徒6名と全州芸術中学校の生徒6名、計12名が参加しました。8月4日から9日までの6日間、私たちは日本の石川県を訪問しました。鶴来中学校との交流のため訪問した日本は、私にとって良い経験であり、思い出となりました。6日間という長くもなく短くもない期間でしたが、良かった記憶を思い出しながら、この期間にした私の経験をもとに報告書を書こうと思います。

日本到着、そしてホームステイ対面式

8月4日未明に私たちは全羅北道庁の前で集まりバスに乗って仁川国際空港へ移動しました。午前2時に起きて準備をした私は疲れに勝てずバスの中で寝てしまい、目が覚めた時にはもう仁川国際空港に到着していました。手続きを終えて飛行機に乗り、日本に到着しました。石川県を訪問するのは初めてでしたのでとても期待してドキドキしました。私たちが最初に向かったのは石川県知事がいらっしゃる所でした。知事室に入り歓迎の言葉を聞いたとき、私が石川県を訪問したことを実感した瞬間でした。私が知事の前に座ったこと、そして私がおのれで挨拶をしなければならぬこと。この二つが理由で私はものすごく緊張していました。知事の歓迎の言葉が終わって、関係者の方が私の名前を日本語で読んだ時ほど震えた瞬間はこれまでにありませんでした。私がおのれの時どうやって話をしたのか全く覚えていないほど心臓がバクバクしていました。全員が私の挨拶に集中している中で始めた挨拶を終えたことでようやく緊張がほぐれました。知事が私に日本語がとても上手だと褒めてくれたことを今でも覚えています。

歓迎挨拶と代表挨拶が終わり、いろいろな日本の名所を観光した後ホームステイ対面式へと移動しました。2日間私を家族のように迎えてくれる父母はどんな人たちなのかとても気になっていました。私と芸術中学校2年生のハヌルを迎えてくれた家族は中村一家でした。初対面で意思疎通も難しかったせい少しこちなさが漂っていたと思います。でも中村一家と一緒に夕食を食べながら少しずつ彼らについて知っていくにつれて、だんだん親しくなりました。幸い私のホ

ストファミリーは英語と韓国語への関心が高く、意思疎通の難しさもだんだん薄れていきました。日本の文化について学びながらとても疲れた初日を終わりました。

ホストファミリーと一緒に過ごした2日目

2日目、疲れていたのか寝過ぎてしまった私とハヌルは遅い朝ごはんを食べてから出かける準備をしました。前の晩に私たちが行きたいと話していた日本のドンキホーテとゲームセンターに行く日でした。ドンキホーテでちょっとしたショッピングをした後に合流した家族と一緒にゲームランドに行きました。日本のゲームセンターは韓国のゲームセンターととても良く似ていました。韓国の青少年が楽しんでいるぬいぐるみのクレーンゲームが日本にもあって、もぐらたたきゲームに似たものもありました。それだけではなく、日本の女の子たちが集まってしていることと韓国の女の子たちが集まって遊んでいることなどにもとても類似性がありました。ホストファミリーの一番年下の娘であるこゆめがプリクラを撮ろうと言ってくれたとき、韓国にいる友達たちと街に出てプリクラを撮って楽しんだことを思い出しました。こゆめと私、そしてハヌルとで撮ったプリクラは本当によく撮れていて、こゆめは私たちと撮ったプリクラをみて幸せだと言ってくれました。こゆめにもいい思い出になったようで私もまたすごくいい気分の日でした。ドンキホーテとゲームセンターで楽しい時間を過ごしたことは今でも忘れることができません。さらにその日食べた日本伝統のラーメンと海苔巻きもまた忘れることができません。

出会った友達との親睦を固める

3日目、私たちはこゆめの学校であり、はるきの出身校でもある学校で、こゆめと友人たちが金管楽器の練習をするのをみました。幼い年齢で、その小さな体で自分と同じくらいの大きさのトロンボーンを持って練習している様子は本当にすごいと思いました。学校見学を終えて私たちはまたショッピングモールへ行き、前の日に買えなかったものを十分に買い、楽しみました。午後の別れの時間となり、ものすごく名残惜しい気持ちになりました。3時ごろホテルロビーにある食堂に私たちの家族はほとんど最後に到着しました。すでに他の家族たちは来ていましたが、彼らも私やハヌルと同じようにホストファミリーと一緒に幸せな時間を過ごした様子でした。

1日会わなかっただけの同じ中学と芸術中学校の友達たちでしたが、その間の彼らの様子が気になってしまうほどに情がわいていたようです。ホストファミリーと連絡を取り続けようと簡単な別れの挨拶をして、私たちは昨年全羅北道を訪問した石川県の子たちと会いました。

日本見学及び文化体験

その子たちは韓国の文化は体験したことがあると言っていました。彼らが韓国を訪問したことは良い思い出として残っていると言うのにつられて、私まで嬉しくなりました。彼らと一緒に金箔体験をし、金箔ソフトクリームを食べましたが、とても面白い経験でした。今でもその時知り合ったさきことという友達と連絡をとっています。日本交流活動を通して本当に韓国と日本の学生たちの仲が深くなっていくようで心が満たされました。

8月7日は最も日本見学と文化体験の日でした。この日だけはいろいろな心配事を忘れて面白く観光できたと思います。私たちが朝に行った所はのとじま水族館でした。のとじま水族館では、深海生物、くらげ、いるか、ペンギン、オットセイなど色々な動物を見ました。深海生物やくらげのような海の生き物はこれまで一度も見たことがなかったのでとても珍しかったです。11時半に全員で集まってイルカショーを見ました。イルカたちがどうやって綺麗に整列し、飼育者が指示する通りの動きをすることができるのかとても気になりました。イルカショーを見たことはありましたが、こんなに沢山の動きをするイルカを見たのは初めてでした。ショーを見ながらずっと不思議で、開いた口が塞がりませんでした。日本の定食である冷たいうどんを食べた後、私たちは妙成寺へ向かいました。妙成寺にある仏像の大きさに驚いたことがまだ記憶に残っています。5mの大きさは本当にすごいと思います。妙成寺では100円を出して私の運勢を見ましたが、色々な良い言葉がたくさんありました。実際にそこに書いてあったことがすべて起きたならどれほど良いでしょう。次に向かった所は、千里浜なぎさドライブウェイでした。車でドライブすることが可能な海岸でしたが、そこで写真を撮るたくさん撮りました。夕食は焼肉のバイキングで食べました。実は私はワサビのとても鼻につく味が嫌いで食べません。なので、寿司もたくさん食べない方なのですが、日本の寿司はワサビが好きではない人のための配慮で別に盛り付けられているのが良かったです。日本の寿司を心行くまで楽し

み、肉もたくさん食べました。おなかが膨れた私たちはホテルに戻りゆっくりと休みました。とても楽しい一日でした。

韓日間の文化交流

8月8日は私たちにとって本当に重要な日でした。鶴来中学校との学校交流が予定されている日だからです。日本に来る前、永善中学校の生徒と自分たちで企画し準備したたくさんの活動を実際に見せる日だったのでとても緊張して震えました。私たちが準備したものを見せる前に、鶴来中学校の生徒たちが準備したのを見ました。初めてみた管楽部の演奏でしたが、全員で合奏した美しい音を作り出していました。楽器の演奏にとっても関心がある私にとってとても得難い時間でした。私は演奏を終えた日本の生徒全員に大きな拍手を送りました。次に私たちは講堂に移動し、柔道部が柔道をしている様子を見ました。私の学校でも柔道を習っているのも、より興味深く見ました。柔道部の生徒たちの中に特に柔道を得意とする生徒が何名かいましたが、彼らの実力は素晴らしかったです。次に私たちは茶道体験へと移動しました。日本のお茶と韓国のお茶は大きな違いがありますが、代表的なことは日本のお茶は粉を使っていて濁っているのに対し、韓国のお茶は葉を使っていて澄んだように抽出されることです。和菓子と一緒にお茶を飲みましたが、和菓子が本当に甘かったことを覚えています。

こうして鶴来中学校の生徒たちが準備したことを観覧した後、私たちが準備したものを見せる時間になりました。私たちは計画しておいた順序のおりに公演をしましたが、私たちの予想以上に日本の生徒たちは積極的に参加してくれてとてもありがたかったです。

最も不思議だったのは韓流文化の影響力でした。日本の生徒たちはK-popへの興味が本当に高く、私たちが出した問題の正解を正確に当てて答えていました。K-pop公演とクイズ、全羅北道の紹介、韓国の伝統舞踊と音楽紹介など色々な出し物を通じて韓日間の親睦を深めることができました。日本の友達と写真を撮り思い出を作って、私たちは京都へと移動しました。

再び韓国へ

最後の日、私たちは朝から準備をして空港へ行きました。再び韓国へ帰る時間でした。日本での良い経験を終えてはしゃぐ気持ちで飛行機に乗り韓国に到着しました。芸術中学校の子たちとは知り合って間もない

のにもう別れとなるからか、この期間で沸いた情のためかとても名残惜しかったです。芸術中学校の子たちともまた会うことを約束して名残惜しさに区切りをつけ、家へと帰りました。

21世紀少年の翼が開くときまで

日本との交流事業ができるような機会を用意してくださいだった沢山の方々に本当に感謝しています。今回の日本旅行及び交流は、私にとって本当に忘れることのできない思い出として残ると思います。21世紀少年の翼というプログラムに参加できたことはとても光栄で、幸せなことでした。これまで色々な国を回って沢山の友達を作り、彼らに韓国の文化を伝えたいという夢を持っていましたが、その夢の一部が満たされた気がします。今回の韓日間の交流をきっかけに日本の学生たちともっと意思疎通を図り良い関係を結んでいきたいです。持続的に鶴来中学校の子たちと交流し、もっと親睦が深まるといいと思います。

ホームステイ感想文

全州芸術中学校3年 ムン・ソンウ

僕は8月4日、日本へ初めての海外に行ってきました。僕たちは一日の日程を終えてホームステイ家族との初めての対面式をしました。僕とテハンはずごく緊張してぎこちない感じでしたが、ホームステイ友達のcoyaが昔からの親しい友達のように気楽に迎えてくれました。対面式では夕食を食べてからそれぞれホームステイの家へ向かいました。僕たちはホームステイ家族の家ではなく1分ほどの距離にあるおばあちゃんの家に行きました。お母さんの家は小さい子供や赤ん坊がいてうるさいので私たちのためにおばあちゃんの家に来て行ってくれたのです。家に入るととても良い部屋なことに感嘆して、お風呂に入りました。部屋にもどり、coyaと1時間くらい日本語と英語を混ぜながら話をしました。それでもとてもよく話が通じたと思います。会話が終わった後、僕たちは寝室に入り、coyaはお休みなさいという日本語を教えてくれて自分の家に向かいました。僕とテハン横になって少し話をしているうちに寝てしまいました。僕はおばあちゃんの「グッモーニン」で目が覚めましたが、テハンは深く眠っていてお尻を2回たたいて起きました。僕とテハン、そしてcoyaはおばあちゃんが準備してくれた日本食を食べて、家の近所に散歩に出かけました。それから、お母さんが推薦してくれた石川県にある茶屋街に行きました。もちろん車から降りたとたん日差しが暑くてだるくなりましたが茶屋街を闊歩しました。

それから暑さをしのぐためお母さんが勧めてくれたかき氷のお店に行きました。僕たちはその店でイチゴと抹茶のかき氷を食べました。お母さんは冷たいアイスコーヒーを飲み、僕たちは冷たいかき氷で涼んだ後、また街を闊歩して、今度は寺院のようなところに行き、手を洗い、運勢を見てもらって、忍者と写真を撮りました。暑かったですがとても面白かったです。それから僕たちはお母さんとcoyaが勧めてくれたうどん屋さんに行くことになりました。僕たちがよくわからないままぼうっとしていたらお母さんが全部注文してくれました。韓国のうどん屋とは違って注文してすぐに出てきたのが不思議で、その場で自分が食べたい揚げ物やおにぎりを選んで計算するのも目新しかったです。

僕たちがうどんを美味しく食べたあと、coyaは勉強しに行ってしまったので、coyaの妹のcao keとricaと

一緒に金沢駅にあるお店で家族へのお土産を買いました。それから勉強を終えたcoyaと倉庫みたいな大型のマートで夕食の材料を買いました。マートにあったような質の良い寿司やピザは初めて見ました。とくに寿司は寿司屋で売っているものよりもずっと美味しそうでした。

それから家に戻るとcoyaの友達でしのぎきという格好い友達が来ていました。僕たちはcoyaの家族やしのぎきと楽しく有意義な夕食を過ごしました。それから僕とテハン、しのぎき、coyaは近所にある銭湯に行きました。僕とテハンは銭湯を日本語で何というのかわからず、シャワーショップと行って通じました。僕とテハンは公衆浴場に入ったときには韓国とあまり違わないと感じましたが、普通の銭湯でも露天風呂があることに感嘆しました。テハンはなんでこんなに時間が早く過ぎるのかと残念がってました。そして僕が一番驚いたことは清掃のおばさんが僕たちが裸なのに何も気にせず入ってきたことで、本当にものすごく驚きました。お風呂から上がるとcoyaが飲み物を買ってくれました。僕は知っている飲み物がなかったのでコーラにしましたが、テハンはメロンソーダという飲み物を飲みました。それから後、テハンは日本にいる間ずっとメロンソーダだけを探して飲んでいました。

その後、僕たちは家に着いても心残りがあったので子供だけでマートにいきました。マートに向かいながら日本語と韓国語の意味を比較しました。この時に日本語を沢山知りました。僕たちはマートに到着して飲み物のコーナーに行きました。テハンはメロンソーダを探しましたが、メロンソーダはありませんでした。テハンは残念がりながらコーヒー飲料を買ってました。お店を出て一口飲んでみてすぐに顔をしかめて、僕に残りを全部飲んでと言いました。でも僕には美味しかったです。そのまま家に帰ろうとしましたが、たまたまセブンイレブンを見つけたので寄っていくことにしました。セブンイレブンでも僕たちは飲み物コーナーにいきましたが、本当に運よくテハンが探していたメロンソーダが1本だけ残ってました。皆がテハンはラッキーだと言っていました。テハンはメロンソーダと緑茶を買いましたが、メロンソーダは家に帰ってから飲むと言って緑茶を飲みました。テハンは緑茶を少し飲むと、また僕に飲んでとくれました。テハンは次から飲み物を選ぶときはもっと慎重に選ぶと言いました。僕たちは飲み物をもって家に帰り、コップに冷たい水を入れて、ジュースを注いで乾杯しました。本当においしかったです。僕たちは日本のバラエ

ティー番組を見ながら聞き取れないのになぜか動きが面白くて面白かったです。

僕たちはそうやって1～2時間笑って過ごしました。それから、次の日の午前は勉強をしに行かなければならないcoyaは寝るためにしのぎきと家に戻りました。僕とテハンはドラえもんを見ながらいつの間にか寝てしまいました。そして僕たちは朝9時くらいに起きました。Coyaは勉強しに行ってしまうのでいませんでした。しのぎきと僕たちは美味しく朝ごはんを食べて金沢駅に行き、日本の電車を見ました。電車はへびみたいな形をしていました。それから僕たちは勉強を終えたcoyaと一緒に家に戻りました。家に着くとカレーが僕たちを迎えてくれました。本当の日本のカレーは韓国のカレーと違って茶色で肉も大きくてとても気に入りました。僕とテハンはあまりのおいしさに2杯も食べてしまいました。僕たちは食べ終わってから、昔の侍たちが住んでいた家に行きました。天気はとても暑かったです。韓国の伝統家屋とは少し違った雰囲気の良い時間を過ごしました。それから僕とテハンは韓国語のじゃんけんぽんを教えました。皆が覚えてくれているかはわかりません。

僕たちはとても名残惜しかったのですが、こうして最後の日程を終えてホームステイ家族が全員集まっているホテルに向かいました。

この感想文を書きながら、この時のことはまるで昨日のこのように鮮明に思い出せました。僕にとってこの2泊3日のホームステイはとても短かったです。ホームステイの後、残りの日程を過ごしているときも、お母さんやお父さん、coya、cao ke、rica、おばあちゃん、赤ちゃんにとっても会いたかったです。今もとても会いたいです。Coyaが高校に合格したあと韓国に来てくれたらいいのと思います。僕は日本で経験したことの中で、ホームステイが一番意味深く、一番楽しかったです。皆が元気で過ごしているのかとても気になります。ホームステイで本当の家族のように迎えてくれて、楽しい思い出をくれた家族の皆にとっても感謝しています。もし日本に旅行に行くことがあったら、石川県に寄って皆に会いたいです。2泊3日の間、本当に楽しい思い出をありがとうございました。

平成29年度
「21世紀石川少年の翼」(韓国・全羅北道訪問団受入) 日程

中学生12名/管理員3名

	月 日	時 刻	日 程	宿 泊 先
1 日 目	8月4日 (金)	9:05 10:50 11:30 12:10 13:00 14:30 16:00 17:10 19:00	仁川空港発 小松空港着 小松空港発 県庁着、昼食 知事表敬 兼六園見学 県立歴史博物館見学 金沢21世紀美術館見学 ホームステイ対面式	ホームステイ
2 日 目	8月5日 (土)		生徒：ホームステイプログラム 管理員：県内視察	ホームステイ
3 日 目	8月6日 (日)	午前 15:00 15:20 18:00 20:00	生徒：ホームステイプログラム 管理員：県内視察 ホームステイ先から集合 箔一 箔功館 見学・金箔貼り体験 (少年の翼OB OGとの交流会) 夕食 宿舎着	ホテルルートイン 金沢駅前
4 日 目	8月7日 (月)	8:45 10:30 12:30 13:30 18:30 20:00	宿舎発 のとじま水族館 昼食 妙成寺 千里浜なぎさドライブウェイ ショッピング 夕食 宿舎着	ホテルルートイン 金沢駅前
5 日 目	8月8日 (火)	8:30 9:30 12:30 13:30 20:00	宿舎発 学校訪問(鶴来中学校) 昼食 大阪へ移動 宿舎着、夕食	ホテルサンプラスユタカ
6 日 目	8月9日 (水)	9:00 9:30 12:25 14:15	宿舎発 関西空港着 関西空港発 仁川空港着	

平成29年度
「21世紀石川少年の翼」(韓国・全羅北道訪問団)名簿

管理指導員

NO.	区 分	氏 名	性別	所 属
1	管理員	ソン・ヒョウオン	女	全羅北道国際協力課
2	管理員	コ・キシキ	男	永善中学校 教師
3	管理員	ハン・ギョンス	男	全州芸術中学校 教師

団 員

NO.	学 校	氏 名	性別	ホームステイ先
1	永善中学校	キム・ウンビ	女	水 上 優 衣
2	全州芸術中学校	カン・ヘミン	女	
3	永善中学校	リュ・チェヨン	女	馬 場 ののか
4	全州芸術中学校	イ・ハヨン	女	
5	永善中学校	ハン・ソヨン	女	中 村 木結芽
6	全州芸術中学校	ソン・ハヌル	女	
7	永善中学校	ミン・ソウン	女	藤 田 美 羽
8	全州芸術中学校	パク・ソヒョン	女	
9	永善中学校	ベ・テハン	男	米 田 昴 矢
10	全州芸術中学校	ムン・ソンウ	男	
11	全州芸術中学校	カン・ヒョンジュ	女	鈴 木 文 耀
12	永善中学校	キム・ソジン	男	河 村 勇 希

平成29年度 21世紀石川少年の翼交流事業報告書

平成30年3月

発行 「21世紀石川少年の翼」実行委員会
(石川県観光戦略推進部国際交流課内)

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
TEL 076-225-1382 FAX 076-225-1383
<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kokusai/>
Eメールアドレス e200500@pref.ishikawa.lg.jp



21世紀石川少年の翼
交流事業報告書